甲府市文化財調査報告 23

史跡 武田氏館跡XI

— 第57次～第64次調査報告書 —

2003

甲府市教育委員会

序

甲府のまちは、永正16年（1519）に武田信虎が川田の館を引き払い、躑躅ヶ崎の地に新たな居館を造営したことに始まります。爾来、山梨県の中心都市としてめざましい発展を遂げて参りましたが、480年を越える長い歴史の中で培われた文化や伝統は実に多彩で、これらを活力あるまちづくりに活用していくための積極的な施策の展開が今日的な課題となっております。

こうした中、本市がとりわけ力を注いでいるのが国史跡武田氏館跡の保存・整備事業でございます。住宅建設などに伴いまして県・市教育委員会で進めて参りました発掘調査は既に65次に及び、56次調査までの成果は『史跡武田氏館跡Ⅶ』（平成12年度）・『同　Ⅷ』（平成13年度）等として編集・刊行させていただきました。また、平成７年度に着手しました学術発掘調査では、戦国大名武田氏の築城技術や生活文化を解明する上で極めて重要なデータの数々を提示することができ、喜ばしい限りでございます。

史跡の発掘調査には相当な労力と時間を要しますが、地道な作業の積み重ねにより甲府発展の礎ともいえる武田氏館の全容が明らかとなり、歴史・文化を活かしたまちづくりの中核施設として活用が図られていくものと考えます。

本書には57～64次調査の成果を報告しております。調査の実施にあたり御指導と御鞭撻をいただきました文化庁・山梨県教育委員会、及び地元関係者の皆様に心より御礼申し上げますとともに、引き続きの御力添えを御願い申し上げます。

平成15年3月12日

甲府市教育委員会

教育長　角　田　智　重

例　　言

1．本書は、山梨県甲府市古府中町・屋形三丁目・大手三丁目地内に所在する国史跡武田氏館跡の現状変更に伴う発掘調査の報告書で、第57次調査（平成10年度）から第64次調査（平成13年度）までを収録している。なお、第59次（平成10年度）調査については、『史跡武田氏館跡VI』に報告済みである。

2．本書に収録した調査は、文化庁・県教育委員会の指導のもと、甲府市教育委員会が主体となって実施した。調査経費は国・県の補助金の交付を受けた。

3．調査は、志村憲一・平塚洋一・伊藤正彦・佐々木満の各文化財主事及び、望月小枝（駒沢大学卒）・内藤かおり（信州大学卒）の発掘調査員が担当した。

4．各調査に付した番号は、山梨県遺跡調査団・山梨県教育委員会・甲府市教育委員会が実施した武田氏館跡関係調査の通算次数を示す。

5．本書の編集・執筆は、中込　功（文化芸術課長）を編集責任者とし、鈴木由香（法政大学卒）が行った。

6．本書の挿図は、鈴木由香及び、栗田かず子・内藤真千子・中村里恵・林久美子・望月小枝が作成した。

7．本書に係わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会で保管している。

8．発掘調査にあたり、土地所有者の御協力を賜った。また、報告書の作成にあたり、次の方から御指導をいただいた。
瀬戸市埋蔵文化財センター・藤澤良祐
平泉町文化財センター・鹿野里絵　　（敬称略）

9．調査参加者
雨宮英郎　池谷富士子　岡　悦子　小沢菊太郎　岸本美苗　倉田勝子
栗田宏一　小池孝男　小宮通子　坂本しのぶ　佐田金子　佐田　昇
清水公子　知見寺照子　長澤晴雄　根岸利昭　花曲敬子　平沢則子
保坂邦雄　本道歌子　本道政清　望月貴美子　渡辺百合子　　（敬称略）

凡　　例

本書に掲載した遺構図・遺物実測図は以下のとおりである。

1．遺構・遺物番号は、各調査地区単位で通し番号とした。

2．遺構名は、各遺構の性格や形状に応じて名称を付したが、名称・番号は、将来、面的な調査等により全体の把握がなされた場合、変更が生じる可能性がある。よって、本書で付した遺構名・番号は暫定的なものとする。

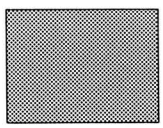
3．全体図・遺構・遺物実測図の縮尺は、図面上に表示したスケールのとおりである。

4．挿図中のＥ・Ｗ・Ｓ・Ｎは、東・西・南・北を表す。

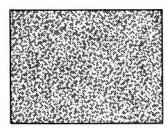
5．調査区位置図には、甲府市都市計画図（1／2500）を使用した。

6．遺物観察表中の色調は「標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1997後期）に基づいて記載した。

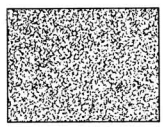
7．実測図内のスクリーントーン指示は以下のとおりであるが、一部個々の図面上に表示したものがある。



石



溶融物



攪乱

焼土

目　　次

序
例　　言
凡　　例
目　　次
調査区一覧表
調査区位置図

第１章　武田氏館跡周辺調査

1　第57次調査（古府中町3555）……1
2　第58次調査（屋形三丁目2520－15）……15
3　第60次調査（古府中町3532・3536）……16
4　第61次調査（大手三丁目3708－3）……21
5　第62次調査（古府中町3575-１）……26
6　第63次調査（古府中町2777-2・2779-1・2780）……28
7　第64次調査（大手三丁目3748-2・3748-7）……31

第２章　小　　括

調査区一覧表

調査次数	所在地	調査原因	調査面積	調査期間	遺構	遺物	備考
第57次	古府中町3555	数野宝宅全面改築工事	76㎡	平成10年9/28 ～11/9	ピット・石列・溝・土坑・井戸・掘立柱建物跡	かわらけ・擂鉢・香炉・陶器・染付・白磁・石臼・銭貨	
第58次	屋形三丁目2520－15	越水稔宅増築工事	10㎡	平成10年11/2 ～10	なし	なし	
第59次	古府中町2611	武田神社石垣改修工事	60㎡	平成10年11/30 ～1/19	土塁	かわらけ・瀬戸美濃・フイゴの羽口・石臼	『館跡Ⅵ』で報告済み
第60次	古府中町3532・3536	谷川義孝宅駐車場造成工事	127㎡	平成10年2/18 ～24	土坑・ピット	かわらけ・擂鉢・須恵器・鉄製品	
第61次	大手三丁目3708－3	数野信宅建築工事	122㎡	平成11年1/19 ～2/5	ピット・溝・土坑	かわらけ・青磁・白磁・銭貨	
第62次	古府中町3575-1	川脇和人宅新築工事	22㎡	平成11年5/31 ～6/3	ピット	なし	
第63次	古府中町2777-2他	スポット公園整備工事	350㎡	平成12年2/23 ～29	なし	かわらけ・鉢・土製品	
第64次	大手三丁目3748-2・7	宅地分譲	60㎡	平成13年10/19 ～11/2	ピット・溝・井戸	かわらけ・鉄製品	

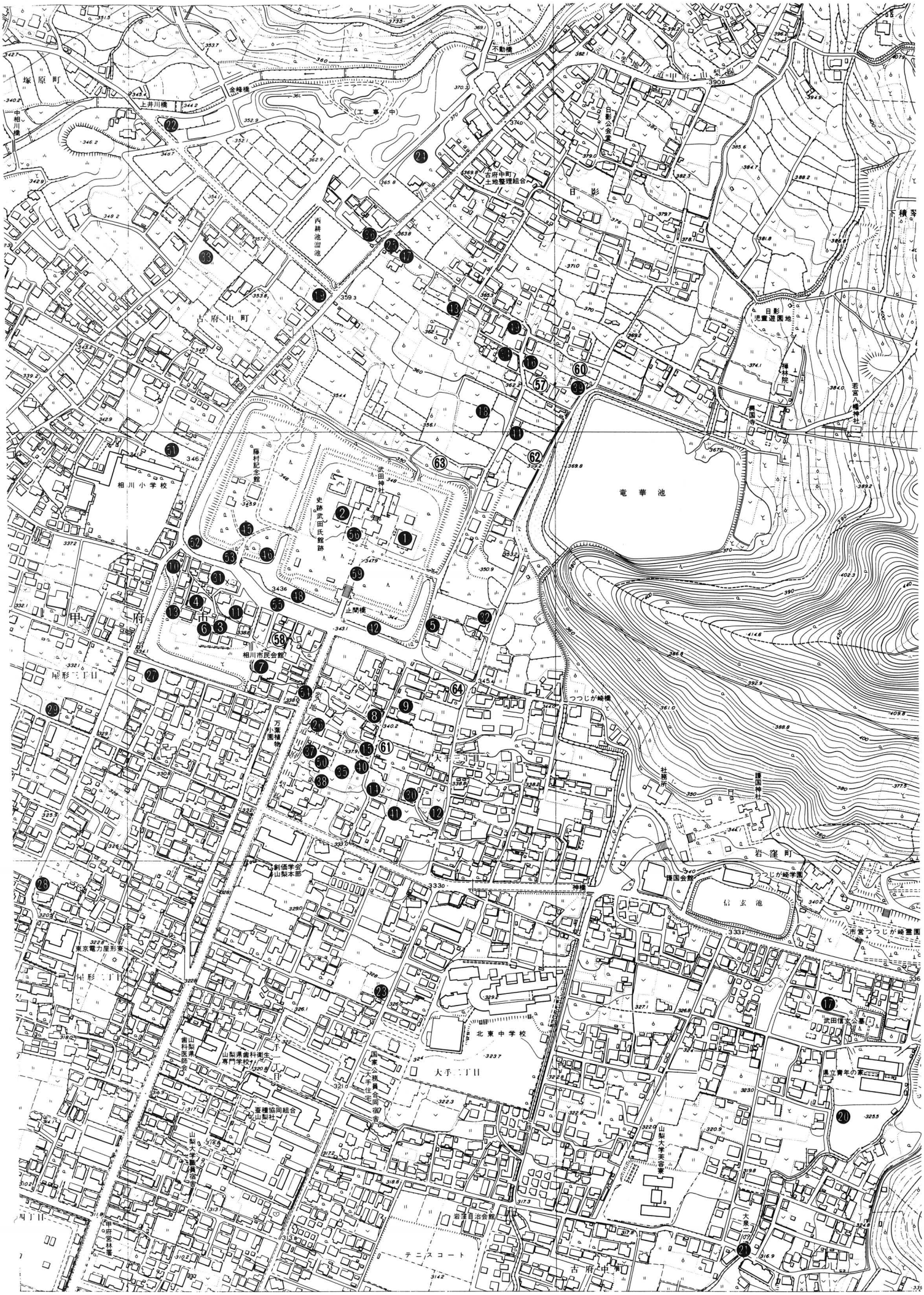
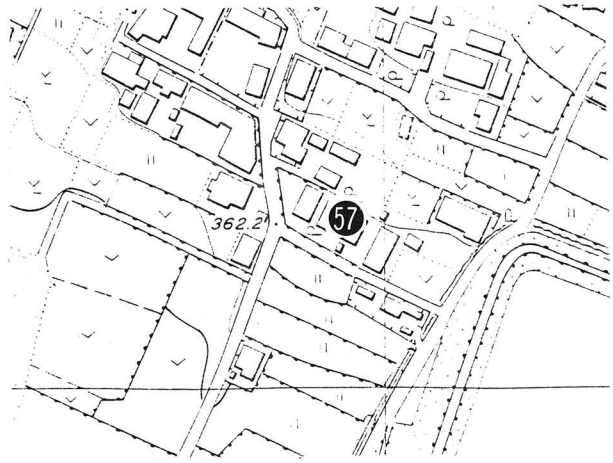

塚原町
上井川橋
金峰橋
中相川橋
不動橋
日影公会堂
古府中町土地整理組合
日影
西耕池溜池
古府中町
日影児童遊園地
禅林院
若宮八幡神社
藤村記念館
武田神社
史跡武田氏館跡
相川小学校
竜華池
止間橋
相川市民会館
つつじが崎橋
万葉植物小園
大手二丁目
社務所
護国神社
岩窪町
創価学会山梨本部
護国会館
つつじが崎学園
信玄池
神橋
市営つつじが崎霊園
東京電力屋形寮
北東中学校
武田信玄公墓
山梨県歯科医師会
山梨県歯科衛生専門学校
国家公務員合同宿舎大手住宅
大手二丁目
県立青年の家
蚕種協同組合山梨社
山梨大学職員宿舎
山梨大学芙容寮
岩窪自治会館
テニスコート
古府中町
0
200m

図1　調査区位置図

武田氏館跡第57次調査



所　在　地　古府中町3555
調査原因　数野宝宅全面改築工事
調査面積　76㎡
調査期間　平成10年９月28日～11月９日
調査担当者　望月小枝

調査の概要

東側に流れる藤川、西側に流れる相川によって形成される相川扇状地の扇央部に位置し、標高363ｍを測る。武田氏時代からの古籠屋小路に西接しており、周辺街路も古絵図に記載が見られるなど当時の様相を残している地域である。現在は田畑が点在する住宅地で、市内を一望できる緩傾斜地である。

調査は８×13.5ｍの調査区の四隅に２×２ｍのトレンチを設定し、人力による掘り下げを行った。遺構の検出によって各トレンチを掘り進め、調査区全面を調査した。

遺　　構

溝２条、土坑３基、ピット52基、柱穴14基、井戸１基が確認された。

溝　　１号溝は最大幅70cm、深さ９cmを測り、Ｎ－142°－Ｅに軸をもつ。かわらけの破片が数点出土し、中世に機能していたものと思われる。２号溝は最大幅80cm、深さ23cmを測る。調査区西端で屈曲し、一部に石列を伴い調査区外に続く。完形のかわらけの他、大窯１または２段階に位置づけられる皿や碗等が出土し、16世紀代に位置づけられる。

図１　第57次調査区位置図

土　坑

１号土坑は不正楕円形を呈し、長径55cm、深さ45cmを測る。直径10cm程の礫を伴い、内部にはかわらけが割られた状態で置かれていた（図５－１）。２号土坑は不正楕円形を呈し、長径90cm、深さ20cmを測る。かわらけが１点出土している（図５－11)。３号土坑は隅丸方形を呈すると思われ、長径80cm、深さ10cmを測る。出土遺物はない。

ピット　直径10～60cm、深さ10～70cmを測る。調査区中央部のやや南側寄りのピット群は掘立柱建物跡で、調査区最西端でも同様な構成をとる柱穴列が確認された。掘立柱建物跡はピット間隔に１ｍ80cmの規則性が見られ、Ｎ－146°－Ｗに軸をもつ。１号溝と重複するピット17は、溝底を掘り込んでいる。１号柱穴列はピット間隔に１ｍ20cmの規則性が見られ、Ｎ－125°－Ｅに軸をもつ。ピット52が２号溝と接し、壁面層の堆積状況から両者は同時期に存在していたものと推測される。周辺には、直径５～20cm程度の礫が敷き詰められていた。これらのピットはかわらけを主とした遺物を伴っており、16世紀代に位置づけられる。

柱　穴　直径10～30cmの礫を伴い、１ｍ20～30cm間隔の規則性をもつ柱穴列が確認された。調査区北側壁面層の堆積状況からは、上層部から掘り込まれている様子が観察でき、他のピットよりも新しいものであることが判断できる。東西方向はＮ－147°－Ｗに、南北方向はＮ－122°－Ｅに軸をもち、１号柱穴列や掘立柱建物跡とほぼ同軸を示す。内部からは、かわらけの破片が数点と近代のガラス瓶などが出土している。

井　戸　調査区最東端で確認され、調査区外へ続く。出土遺物はない。

遺　　物

かわらけ（１～67)、土器（68・76)、擂鉢（70・73・75・77・78・79)、香炉（69・71・72)、片口土器（74)、国産陶器（80～92)、染付（93～97)、石製品（98・99）が出土した。

かわらけはいずれもロクロ成形で、底部に回転糸切痕を残す。３・11・12・21・22・54は炭化物が付着し、二次的使用の痕跡を残す。29は底部穿孔かわらけである。国産陶器の87～92は見込みに菊印をもつ端反皿または丸皿で、大窯１～２段階に比定される。

ま　と　め

調査の結果、規則性をもつ柱穴列・掘立柱建物跡が確認され、中世における建物跡の様相を知る手がかりとなる成果を得ることができた。２号溝・１号柱穴列・掘立柱建物跡は、接触するピット52と同層で掘り込まれている様子が層の堆積状況から窺え、出土遺物も同時期に比定される。１号柱穴列は建物が調査区西側へ広がるものと推測され、これと掘立柱建物跡の間に走る２号溝が境界線的な機能をもって存在したものと考えられる。礫を伴う柱穴列は他のピット群よりも上層から掘り込まれており、比較的新しいものであるが１号柱穴列や掘立柱建物跡とほぼ同軸を示し、前時期の建物軸に合わせた設計を行っている。この他にもピットが点在しており、数回に渡る建物の建て替えが行われていた様子が窺える。

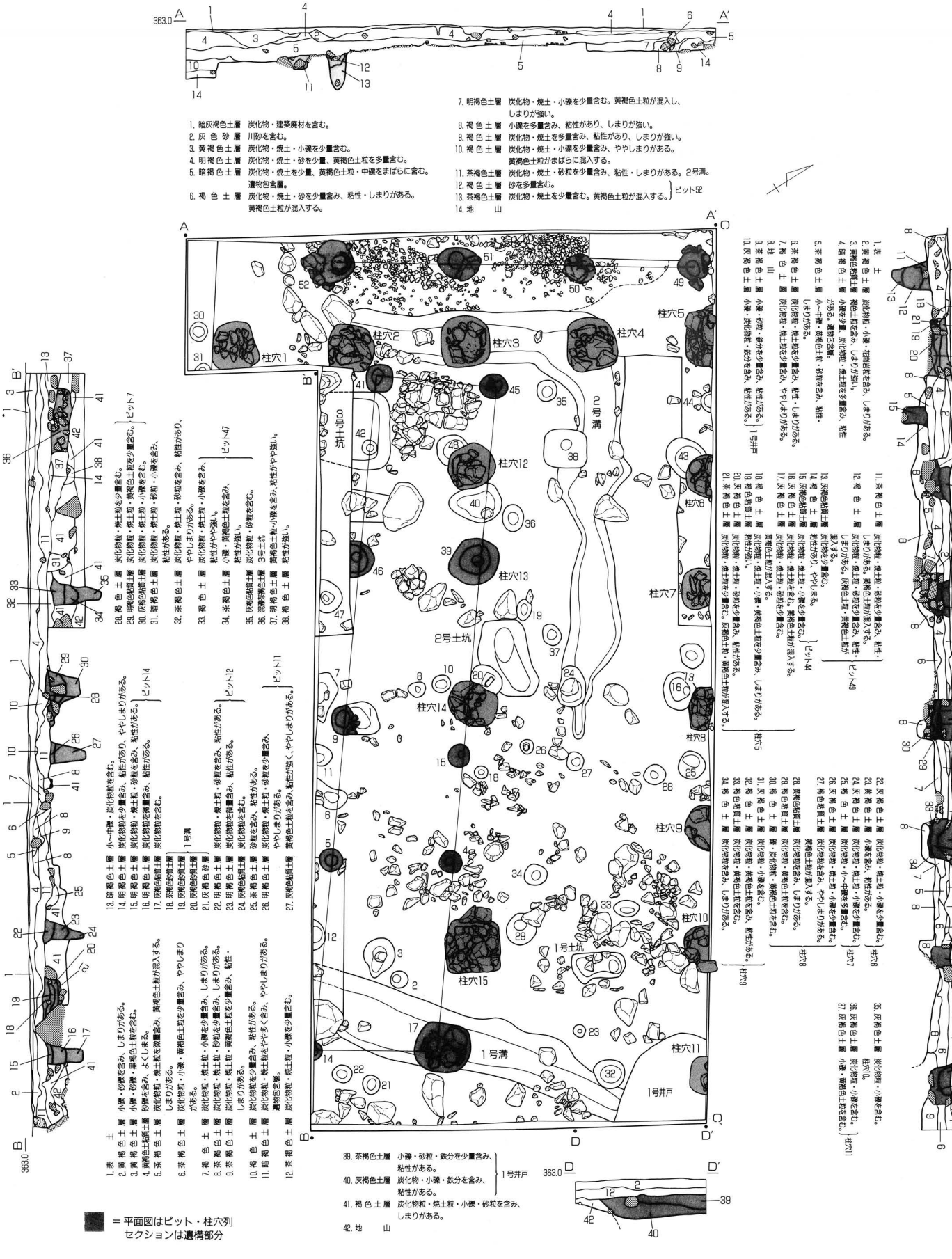


図2　第57次調査全体図・セクション

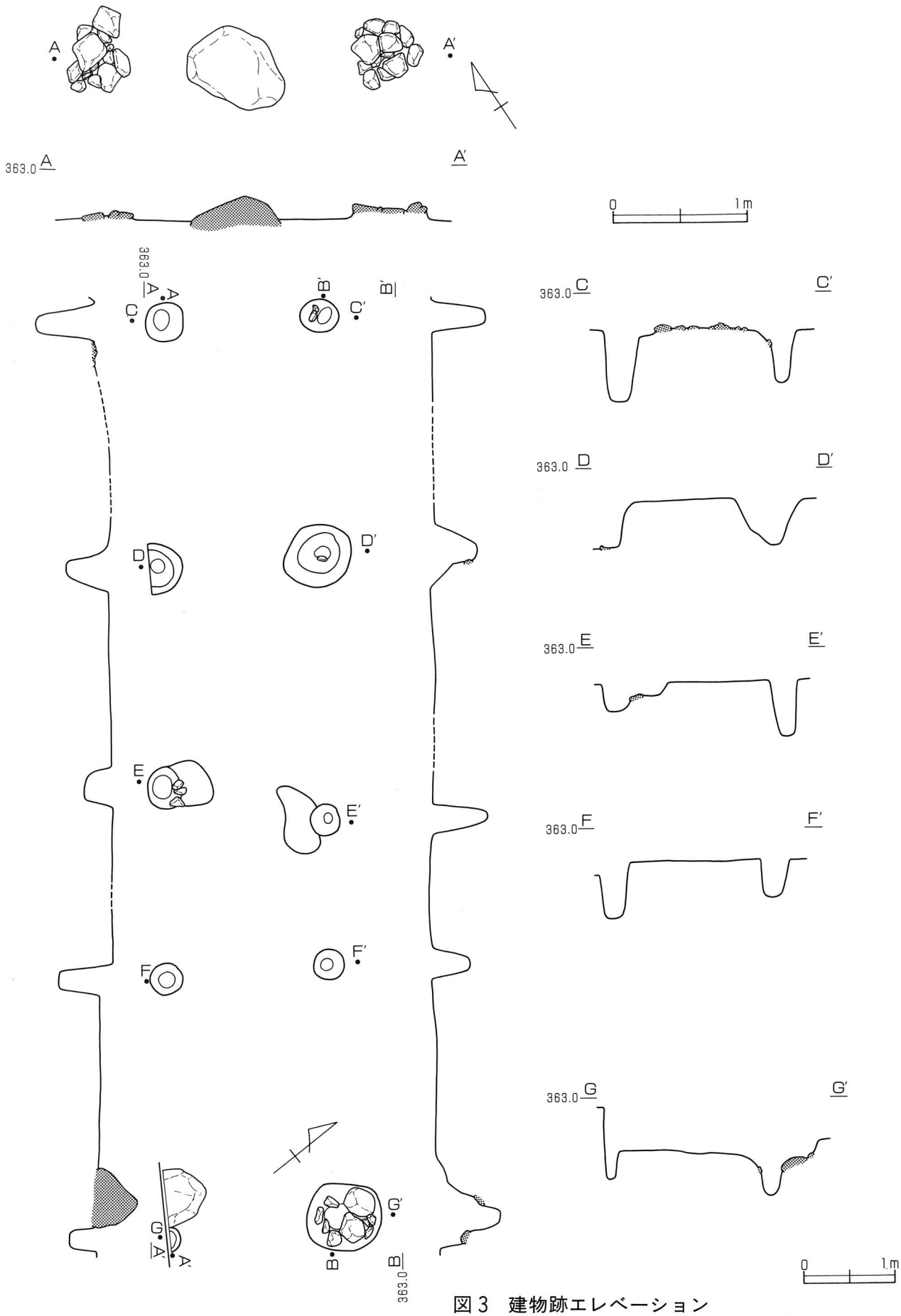


図３　建物跡エレベーション

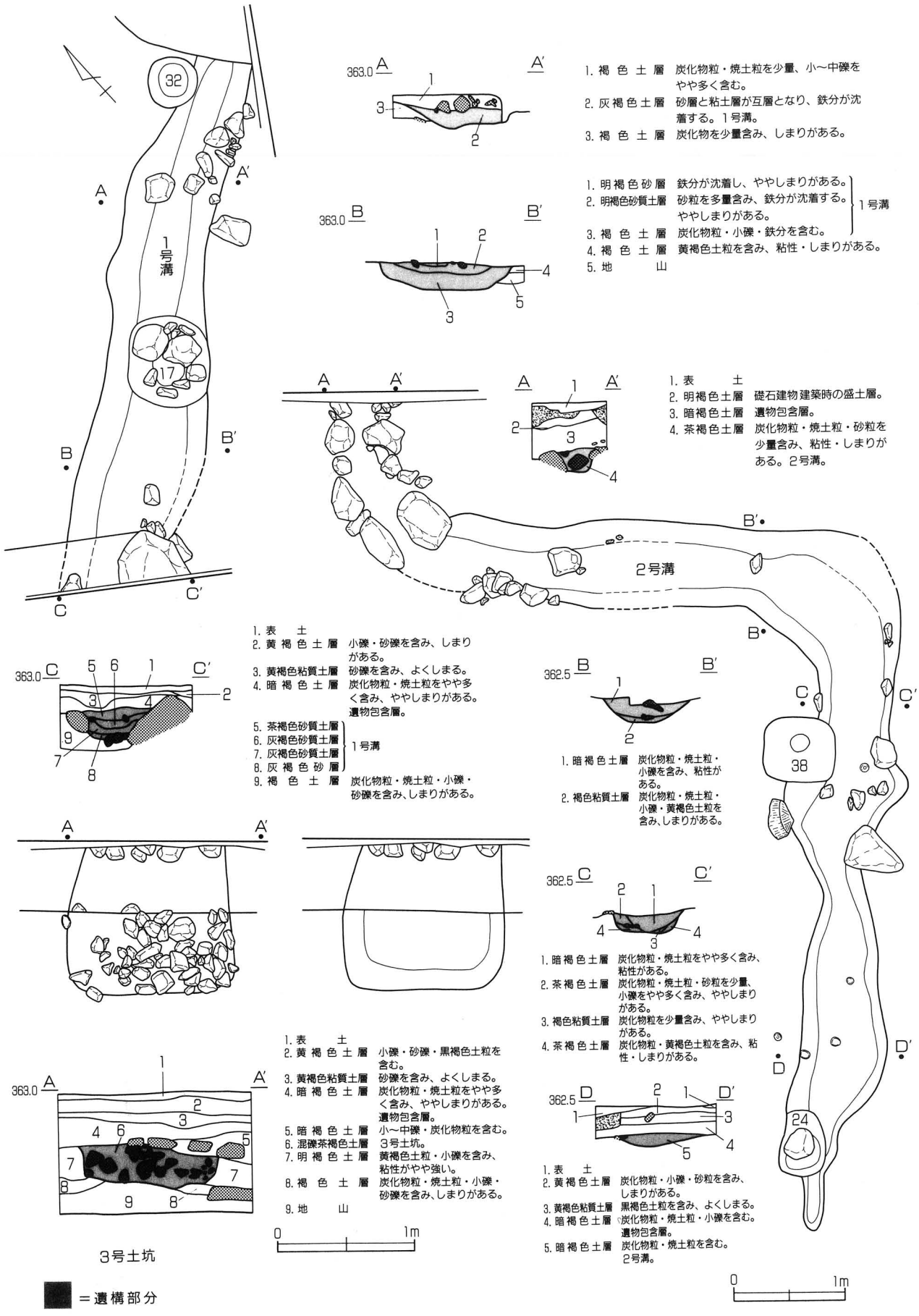


図4　1号溝・2号溝・3号土坑

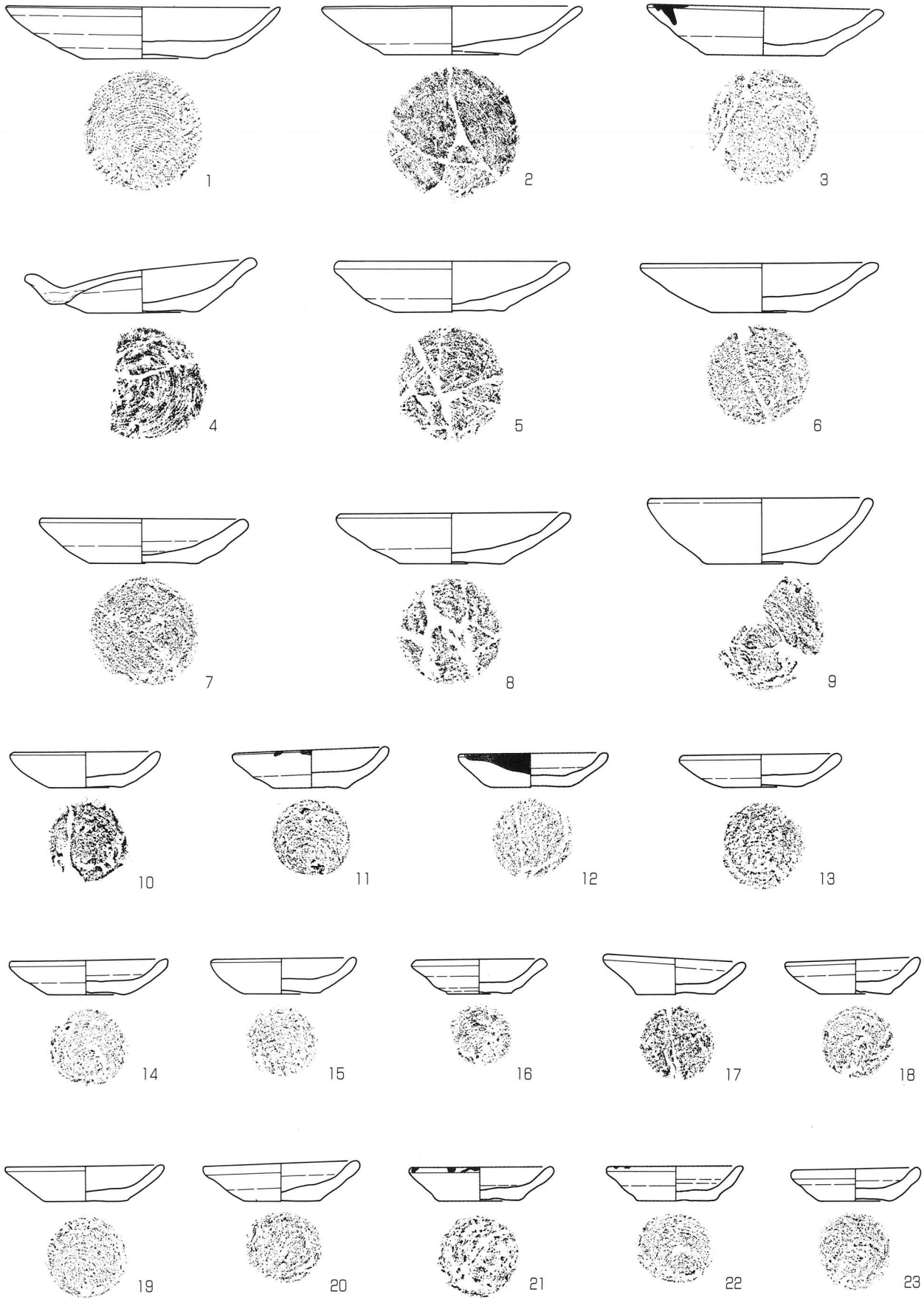


図５　第57次調査出土遺物（1）

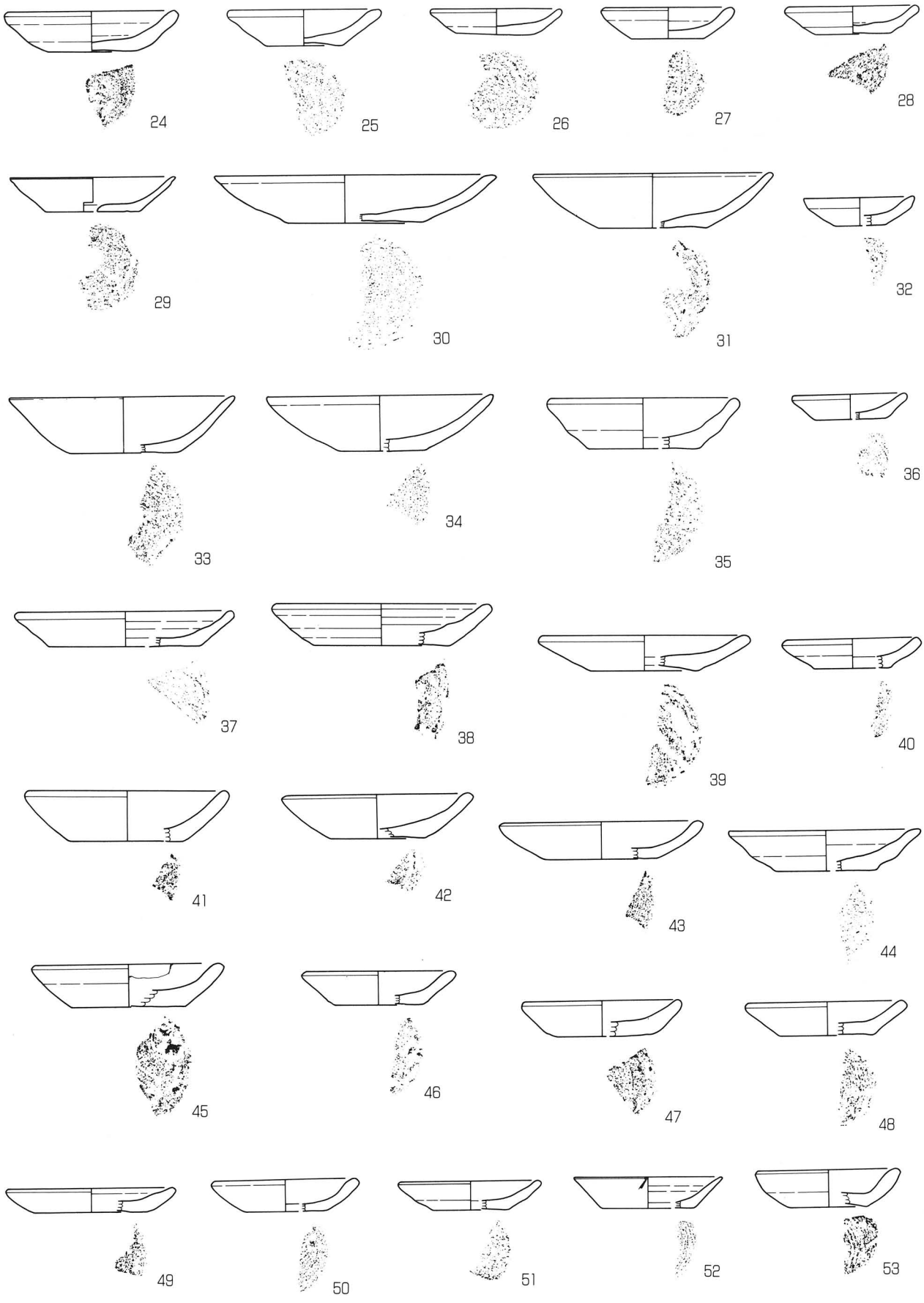


図6　第57次調査出土遺物（2）

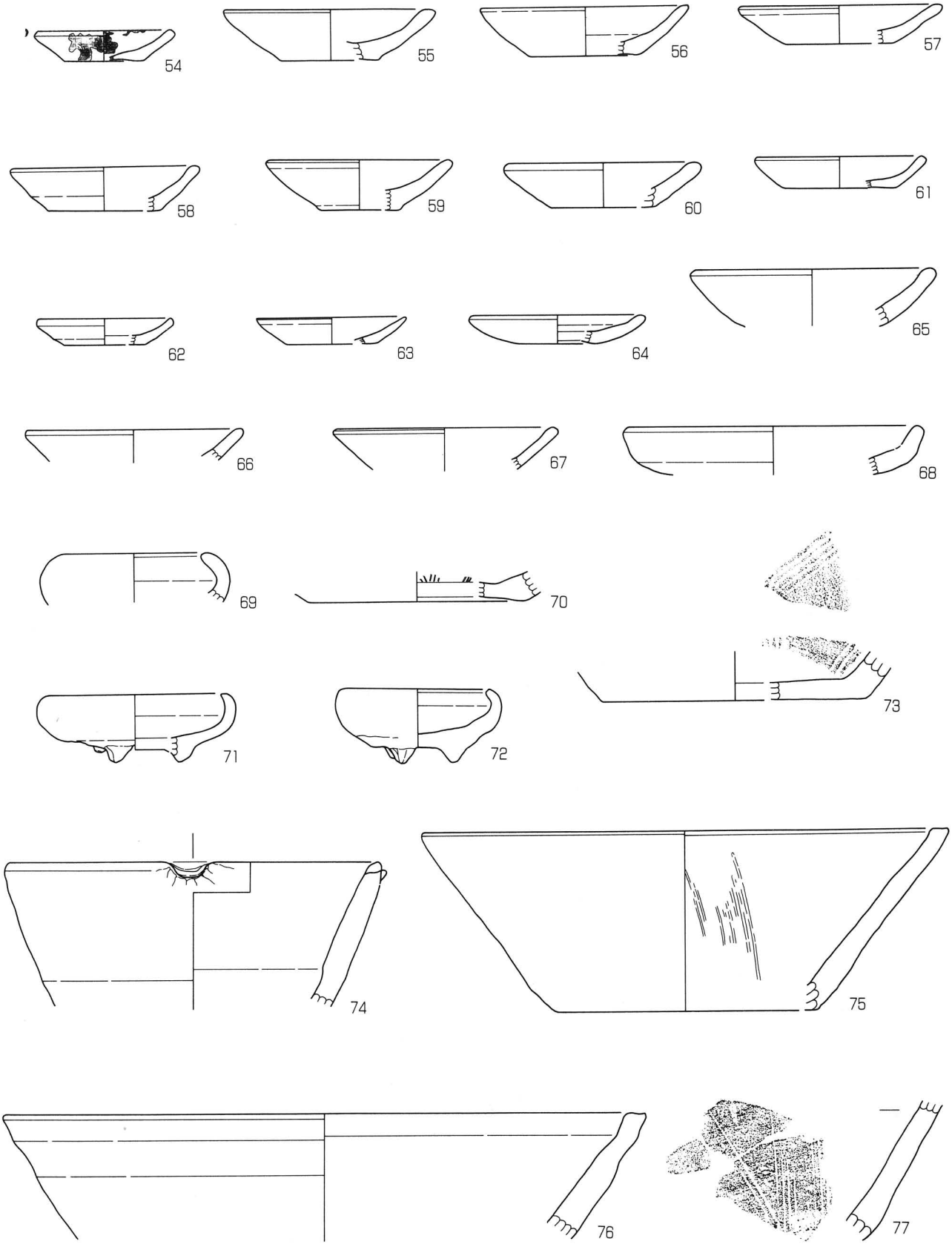


図７　第57次調査出土遺物（3）

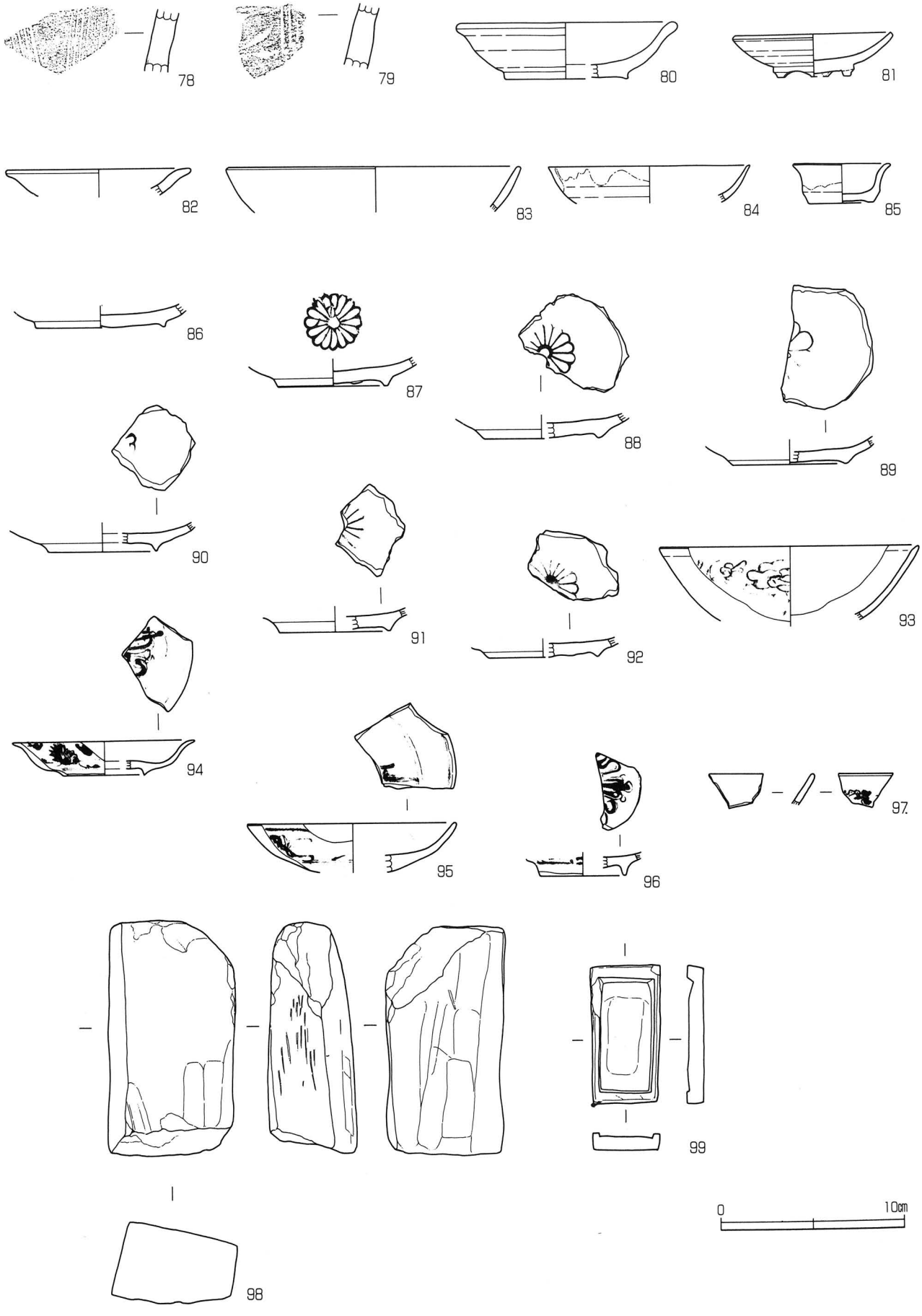


図８　第57次調査出土遺物（４）

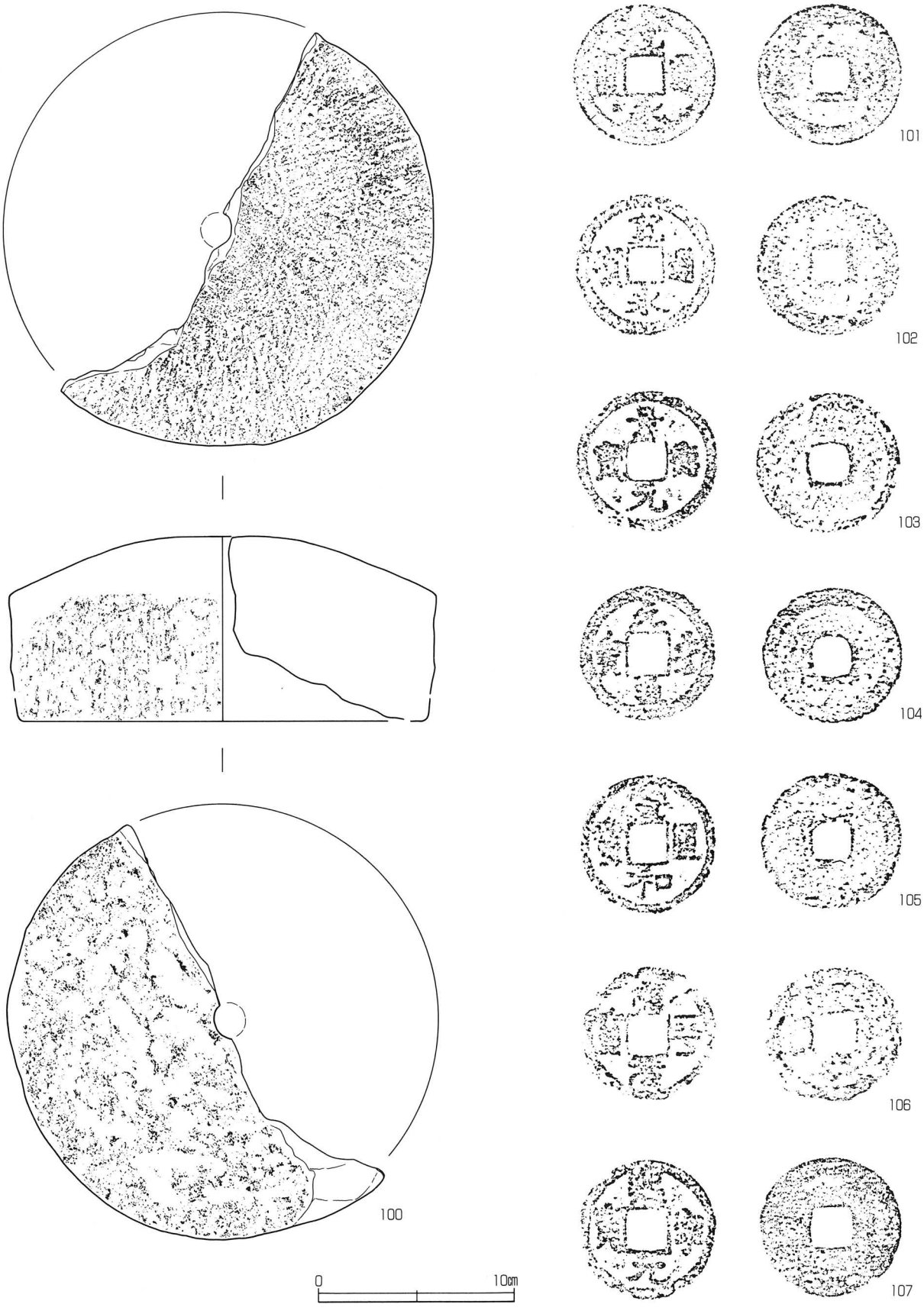


図９　第57次調査出土遺物（５）

表1　第57次調査出土遺物観察表

（　）復元値、〈　〉残存値、単位(cm)

番号	出土地点	種別 産地	器種	法量 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	1号土坑	土器	かわらけ	14.6・2.75・6.7	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	赤色粒子	良	浅黄橙 10YR 8/4	
2	一括	土器	かわらけ	(13.6)・(2.6)・(7.2)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・金雲母	良	にぶい橙 7.5YR 6/4	
3	一括	土器	かわらけ	12.2・2.6・6.2	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
4	一括	土器	かわらけ	(12.2)・2.3・(4.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
5	一括	土器	かわらけ	12.1・2.5・5.9	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
6	一括	土器	かわらけ	12.3・2.6・5.2	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 7/6	
7	一括	土器	かわらけ	10.8・2.4・5.8	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	金雲母・赤色粒子	良	内)橙 5YR 6/6 外)にぶい橙 7.5YR 6/4	
8	一括	土器	かわらけ	12.2・2.7・5.4	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 7/6	
9	一括	土器	かわらけ	(11.4)・(3.5)・(6.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/6	底部摩耗
10	一括	土器	かわらけ	(7.6)・1.9・(4.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	にぶい橙 5YR 7/4	
11	2号土坑	土器	かわらけ	8.0・2.1・4.1	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
12	一括	土器	かわらけ	7.8・1.8・4.2	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/6	外面に炭化物
13	一括	土器	かわらけ	8.0・1.75・4.0	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
14	一括	土器	かわらけ	8.4・1.8・4.1	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
15	一括	土器	かわらけ	7.6・1.9・4.0	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・金雲母	良	橙 7.5YR 7/6	
16	一括	土器	かわらけ	(6.8)・1.8・(3.5)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	にぶい赤褐 5YR 5/4	
17	一括	土器	かわらけ	7.2・1.9・4.0	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/6	
18	一括	土器	かわらけ	7.2・1.8・3.8	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	にぶい橙 7.5YR 7/6	
19	一括	土器	かわらけ	8.3・1.9・4.5	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 7/6	
20	一括	土器	かわらけ	8.2・2.0・3.9	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	にぶい橙 7.5YR 7/4	
21	一括	土器	かわらけ	7.5・1.8・4.3	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	にぶい黄橙 10YR 7/4	口唇部に炭化物
22	一括	土器	かわらけ	7.1・1.9・4.2	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	にぶい黄橙 10YR 7/4	口唇部に炭化物 外面にスス付着
23	一括	土器	かわらけ	6.6・1.8・3.8	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・金雲母	良	橙 7.5YR 7/6	
24	一括	土器	かわらけ	(8.8)・(2.15)・(4.8)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	内)明赤褐 2.5YR 5/6 外)橙 7.5YR 6/6	
25	ピット1	土器	かわらけ	(8.0)・(1.95)・(4.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/6	底部コゲ
26	ピット39	土器	かわらけ	(6.8)・(1.9)・4.4	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	底部コゲ
27	一括	土器	かわらけ	(6.8)・(1.7)・(3.8)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	明赤褐 5YR 5/6	
28	一括	土器	かわらけ	(6.8)・(1.5)・(4.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	金雲母・赤色粒子	良	内)橙 7.5YR 6/6 外)明黄褐 10YR 7/6	
29	一括	土器	かわらけ	(8.7)・(1.85)・(5.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	底部穿孔
30	一括	土器	かわらけ	(16.0)・(2.6)・(8.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	雲母・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
31	一括	土器	かわらけ	(12.6)・(2.9)・(5.8)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	雲母・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
32	一括	土器	かわらけ	(5.8)・(1.5)・(2.7)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
33	一括	土器	かわらけ	(12.0)・(3.0)・(6.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	にぶい橙 7.5YR 6/4	
34	一括	土器	かわらけ	(11.6)・(3.0)・(4.6)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 7/6	
35	一括	土器	かわらけ	(10.0)・(2.7)・(6.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	

表２　第57次調査出土遺物観察表

（　）復元値、〈　〉残存値、単位(cm)

番号	出土地点	種別 産地	器種	法量 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
36	一括	土器	かわらけ	(6.0)・(1.35)・(3.6)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
37	ピット47	土器	かわらけ	(11.4)・(1.9)・(8.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	にぶい黄褐 10YR 6/4	
38	一括	土器	かわらけ	(11.2)・(2.2)・(7.2)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	にぶい褐 7.5YR 6/3	
39	一括	土器	かわらけ	(11.0)・(1.9)・(5.6)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	石英・金雲母・赤色粒子	良	明赤褐 5YR 5/6	
40	一括	土器	かわらけ	(6.8)・(1.6)・(4.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/6	
41	一括	土器	かわらけ	(10.6)・(2.7)・(6.0)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	にぶい橙 7.5YR 6/4	
42	一括	土器	かわらけ	(9.6)・(2.4)・(5.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	にぶい橙 7.5YR 6/4	
43	一括	土器	かわらけ	(10.6)・(2.0)・(6.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
44	一括	土器	かわらけ	(10.2)・(2.2)・(5.4)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/6	
45	2号溝	土器	かわらけ	(9.8)・(2.3)・(6.2)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
46	一括	土器	かわらけ	(7.8)・(1.8)・(4.6)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 7/6	底部・見込み・口縁部にスス付着
47	一括	土器	かわらけ	(8.2)・(1.9)・(5.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・雲母・金雲母	良	黒 10YR 2/1 にぶい黄橙 10YR 7/4	
48	一括	土器	かわらけ	(8.0)・(1.8)・(4.9)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	石英・金雲母・赤色粒子	良	にぶい褐 7.5YR 5/4	
49	一括	土器	かわらけ	(8.8)・(1.3)・(6.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・赤色粒子	良	にぶい橙 7.5YR 6/4	
50	一括	土器	かわらけ	(7.6)・(1.7)・(4.6)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/6	
51	一括	土器	かわらけ	(7.1)・(1.55)・(4.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
52	ピット54	土器	かわらけ	(7.9)・(1.7)・(5.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
53	一括	土器	かわらけ	(7.4)・(2.2)・(4.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/5	
54	一括	土器	かわらけ	(7.0)・(1.6)・(4.2)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・金雲母	良	明赤褐 2.5YR 5/6	外面コゲ
55	一括	土器	かわらけ	(10.9)・(2.7)・(5.2)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
56	一括	土器	かわらけ	(10.8)・(2.6)・(5.6)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 7/6	
57	一括	土器	かわらけ	(10.4)・(2.05)・(5.8)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・金雲母	良	明赤褐 5YR 5/6	
58	一括	土器	かわらけ	(9.7)・(2.3)・(6.0)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	内)にぶい黄褐 10YR 4/3 外)褐灰 10YR 4/1	
59	一括	土器	かわらけ	(9.6)・(2.7)・(4.4)	口縁部～底部	ロクロ成形	石英・雲母・金雲母	良	明赤褐 5YR 5/6	
60	一括	土器	かわらけ	(9.8)・(2.4)・(5.4)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・石英・雲母・金雲母	良	にぶい褐 7.5YR 5/4	
61	一括	土器	かわらけ	(8.6)・(1.7)・(6.0)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・石英・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
62	一括	土器	かわらけ	(7.0)・(1.4)・(4.2)	口縁部～底部	ロクロ成形	石英・金雲母・赤色粒子	良	内)橙 7.5YR 6/6 外)にぶい橙 7.5YR 7/4	
63	ピット51	土器	かわらけ	(8.0)・(1.4)・(4.8)	口縁部～底部	ロクロ成形	金雲母	良	にぶい黄褐 10YR 6/4	
64	一括	土器	かわらけ	(8.8)・(1.5)・(4.0)	口縁部～底部	ロクロ成形	石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 5/4	
65	一括	土器	かわらけ	(12.2)・〈3.05〉・－	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
66	ピット51	土器	かわらけ	(11.4)・〈1.7〉・－	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/8	
67	一括	土器	かわらけ	(11.4)・〈2.2〉・－	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	明赤褐 5YR 5/6	
68	一括	土器	かわらけ	(15.4)・(2.6)・－	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
69	一括	土器	香炉	(7.0)・〈2.7〉・－	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
70	一括	土器	擂鉢	－・〈1.5〉・(11.3)	底部	ナデ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 2.5YR 6/6	
71	一括	土器	香炉	(8.0)・(4.0)・(4.8)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	

表３　第57次調査出土遺物観察表

（　）復元値、〈　〉残存値、単位(cm)

番号	出土地点	種別 産地	器種	法量 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
72	一括	土器	香炉	(10.0)・(3.5)・(3.5)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
73	ピット5	土器	擂鉢	－・〈2.5〉・(14.0)	底部	不明	長石・石英・雲母・金雲母	良	内)橙 5YR 6/6 灰黄褐 10YR 6/2 外)明黄褐 10YR 6/6	
74	一括	土器	片口鉢	(19.4)・〈7.7〉・－	口縁部～体部	ナデ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
75	一括	土器	擂鉢	(26.8)・(9.6)・(14.2)	口縁部～底部	ナデ成形	長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
76	一括	土器	鉢	(32.8)・〈6.7〉・－	口縁部～体部	ナデ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	明赤褐色 2.5YR 5/6	
77	一括	土器	擂鉢	－・－・－	体部	ナデ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
78	一括	土器	擂鉢	－・－・－	体部	ナデ成形	長石・石英・金雲母	良	橙 2.5YR 6/6	
79	一括	土器	擂鉢	－・－・－	体部	ナデ成形	長石・石英・金雲母	良	にぶい橙 5YR 6/4	
80	一括	陶器	端反皿	(11.5)・(3.1)・(6.8)	口縁部～底部		密／灰釉	良好	－	大窯１段階
81	一括	白磁	皿	(8.6)・2.3・(4.0)	口縁部～底部		緻密	良好	－	底部抉り４単位
82	一括	陶器	端反皿	(10.0)・〈1.4〉・－	口縁部～体部		密／灰釉	良好	－	大窯１段階
83	一括	陶器	平碗	(15.8)・〈2.45〉・－	口縁部～体部		密／鉄釉	良好	－	大窯１段階
84	ピット40	陶器	丸皿	(11.0)・〈2.0〉・－	口縁部～体部		密／鉄釉	良好	－	大窯２段階？
85	一括	陶器	小杯	5.4・2.2・3.6	口縁部～底部		密／鉄釉	良好	－	大窯２か３段階
86	一括	陶器	丸皿？	－・〈1.2〉・(7.0)	底部		密／灰釉	良好	－	大窯２段階
87	一括	陶器	端反皿か丸皿	－・〈1.5〉・(6.0)	底部		密／灰釉	良好	－	大窯１か２段階 見込みに菊印
88	一括	陶器	端反皿か丸皿	－・〈1.3〉・(6.4)	底部		密／灰釉	良好	－	大窯１か２段階 見込みに菊印
89	一括	陶器	丸皿？	－・〈1.5〉・(3.2)	底部		密／灰釉	良好	－	大窯２段階 見込みに菊印
90	一括	陶器	端反皿か丸皿	－・〈1.6〉・(6.0)	底部		密／灰釉	良好	－	大窯１か２段階 見込みに菊印
91	一括	陶器	端反皿か丸皿	－・〈1.3〉・(6.0)	底部		密／灰釉	良好	－	大窯１か２段階 見込みに菊印
92	一括	陶器	端反皿か丸皿	－・〈1.0〉・(6.0)	底部		密／灰釉	良好	－	大窯１か２段階 見込みに菊印
93	一括	磁器	碗	(14.0)・〈4.1〉・－	口縁部～体部		緻密	良好	－	
94	一括	磁器	皿	(11.0)・〈2.65〉・－	口縁部～体部		緻密	良好	－	
95	一括	磁器	碗	(10.0)・(1.8)・(4.4)	口縁部～底部		緻密	良好	－	
96	一括	磁器	皿	－・〈1.2〉・(4.6)	底部		緻密	良好	－	
97	一括	磁器	不明	－・－・－	口縁部		緻密	良好	－	
98	一括	石製品	砥石	長さ 12.7・幅 6.9・厚さ 3.95	－					
99	一括	石製品	硯	長さ 7.5・幅 3.6・厚さ 0.9	－					
100	２号溝	石製品	石臼	最大径 14.7・最大幅 29.2・高さ 12.7	下臼					
101	一括	銭貨	寛永通宝	直径 2.52・穿径 0.6・重量 3.3ｇ						
102	柱穴10	銭貨	寛永通宝	直径 2.49・穿径 0.52・重量 3.4ｇ						
103	一括	銭貨	景徳元宝	直径 2.5・穿径 0.65・重量 1.9ｇ						
104	一括	銭貨	元豊通宝	直径 2.42・穿径 0.64・重量 2.1ｇ						
105	一括	銭貨	宣和通宝	直径 2.44・穿径 0.62・重量 2.9ｇ						
106	一括	銭貨	治平元宝	直径 2.41・穿径 0.65・重量 2.2ｇ						
107	一括	銭貨	熙寧通宝	直径 2.47・穿径 0.68・重量 1.7ｇ						

写真１　調査区全景

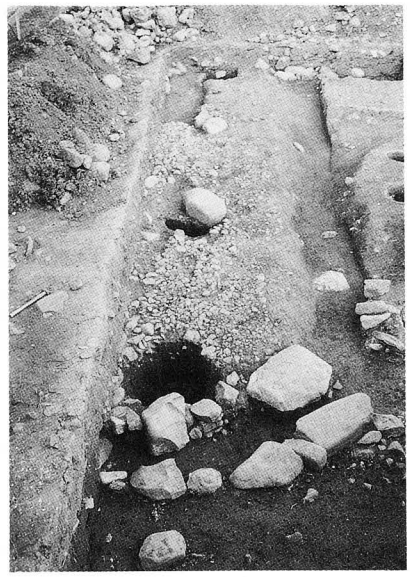


写真２　敷石検出状況

写真３　２号溝検出状況

写真４　２号溝遺物出土状況

写真５　柱穴列検出状況

写真６　調査風景

武田氏館跡第58次調査

所　在　地　屋形三丁目2520－15
調査原因　越水稔宅増築工事
調査面積　10㎡
調査期間　平成10年11月２日～10日
調査担当者　伊藤正彦

調査の概要

武田氏館跡の南側約150ｍに位置し、標高339ｍを測る。東側には城下へ南下する広小路（現在の県道甲府・山梨線）が走る。南側50ｍ地点で行われた第７次調査では、基底部からの高さ1.5ｍを測る土塁が確認され、土塁下部からは人骨が出土している。また、西側50ｍ地点での第11次調査の際には幅15ｍを測り、武田氏館跡と主軸を同じくする溝が確認されている。

建物増築部分を幅1.2ｍ、長さ4.8ｍ程度重機で掘り下げ、遺構の確認を行った。

遺構・遺物

部分的に巨大な礫が見られたが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

ま　と　め

遺構は検出されなかったが、周辺で行われた過去の調査成果から本地点が屋敷の空閑地であったことも考えられ、今後の周辺調査に期待したい。

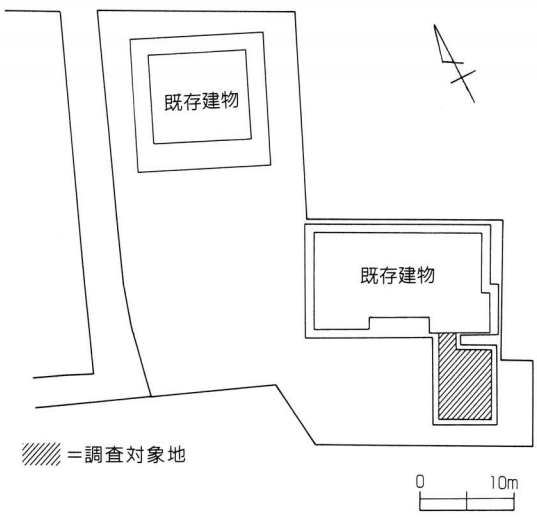
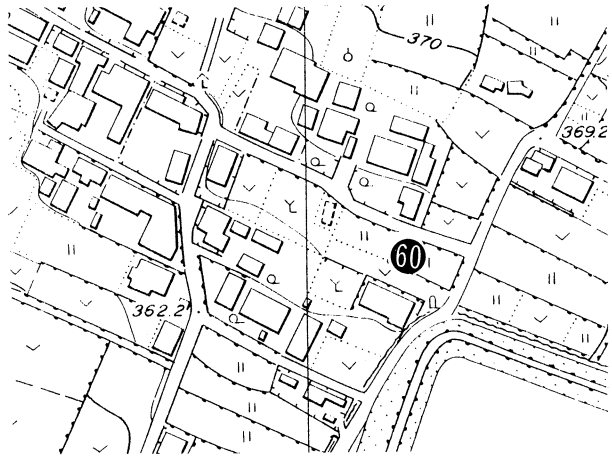


図１　第58次調査区位置図

写真１　土層堆積状況

武田氏館跡第60次調査



所　在　地　古府中町3532・3536
調査原因　谷川義孝宅駐車場
調査面積　127㎡
調査期間　平成10年２月18日～24日
調査担当者　平塚洋一

調査の概要

東側に流れる藤川、西側に流れる相川によって形成される相川扇状地の開析部に位置し、標高365ｍ前後を測る。古絵図によると周辺街路は武田氏時代からの名残で、武田氏家臣屋敷跡の伝承地でもある。本地点南側には大正６年築造の竜ヶ池が位置し、日当たりの良い緩傾斜地である。

調査は南北41ｍ・東西11.3ｍと12.8ｍのトレンチを設定し、人力による掘り下げを行った。

遺　　構

土坑３基、ピット３基が確認された。

土　坑　１号土坑は直径80cm、深さ28cmを測る。直径10～50cmの礫が充填し、ピット１と重複する。内部から、かわらけが出土している（図３－９）。２号土坑は直径127cm、深さ18cmを測り、平面形態は不正円形を呈する。かわらけが出土している（図３－14)。３号土坑は直径87cm、深さ58cmを測り、平面形態は円形を呈する。直径20cm程度の石を円形に配している。出土遺物はない。

ピット　ピット１は直径48cm、深さ15cmを測る。1号土坑と重複し、南側が調査区外に続く。ピット２は調査区中央の焼土集中部分で確認された。確認できた部分で長径65cm、深さ19cmを測る。ピット３は長径30cm、深さ22cmを測り、不正楕円形を呈する。ピットからの出土遺物はなかった。

遺　　物

かわらけ（１～18・20）を主体とし、陶器皿（19)、擂鉢（21)、須恵器片（22)、鉄製品（22・23）が出土している。

出土したかわらけの全てがロクロ成形で、底部には回転糸切り痕を残す。11のかわらけは、内面に溶融物が付着している。

ま　と　め

確認された遺構は土坑とピットのみであったが、集石・焼土が所々に見られた。Ａ・Ｂトレンチの礫集中か所に遺構が確認されていないのは庭などの空閑地であったことも推定されるが、本地点に何らかの施設が存在した可能性も考えられる。

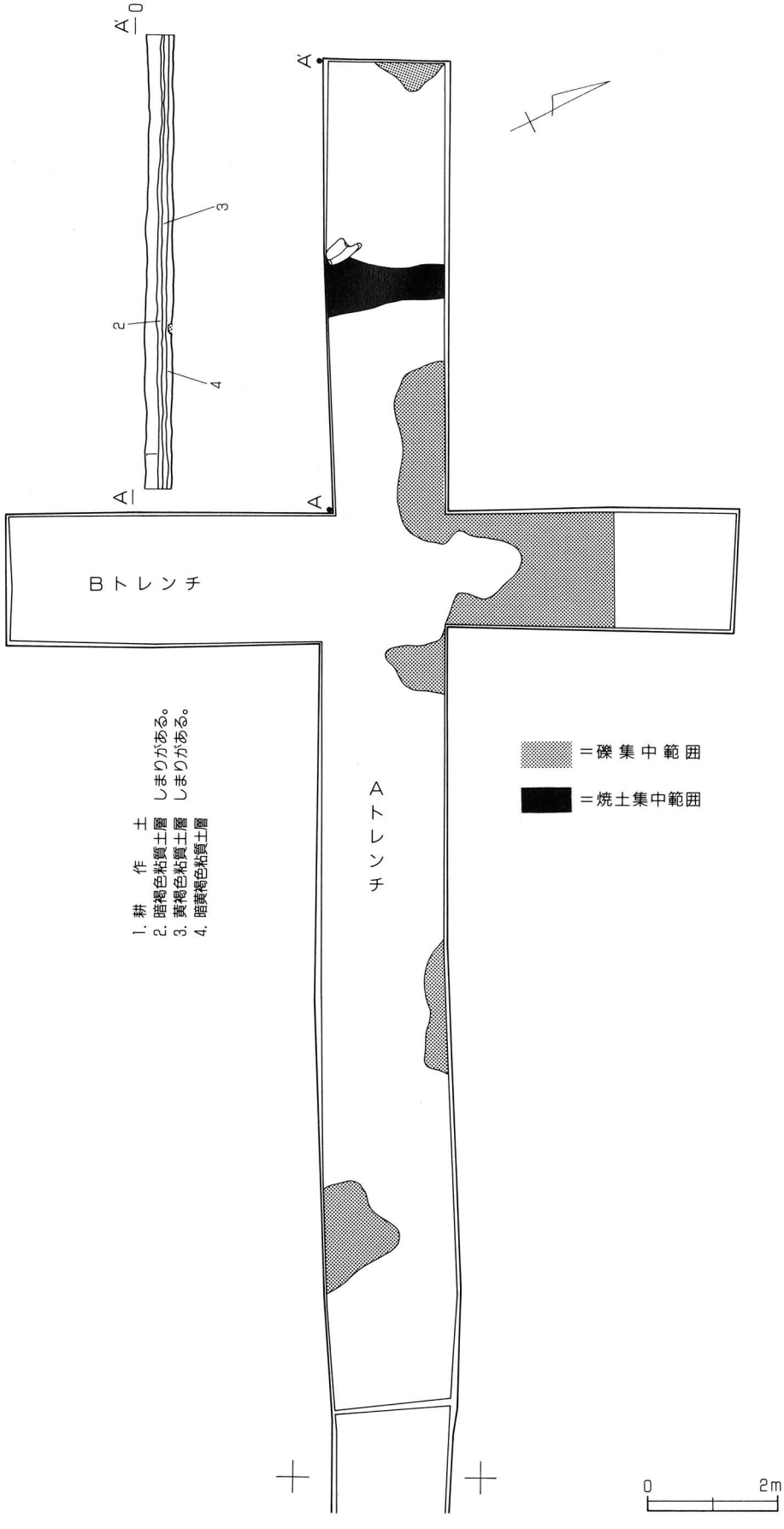


図1　第60次調査全体図・セクション（1）

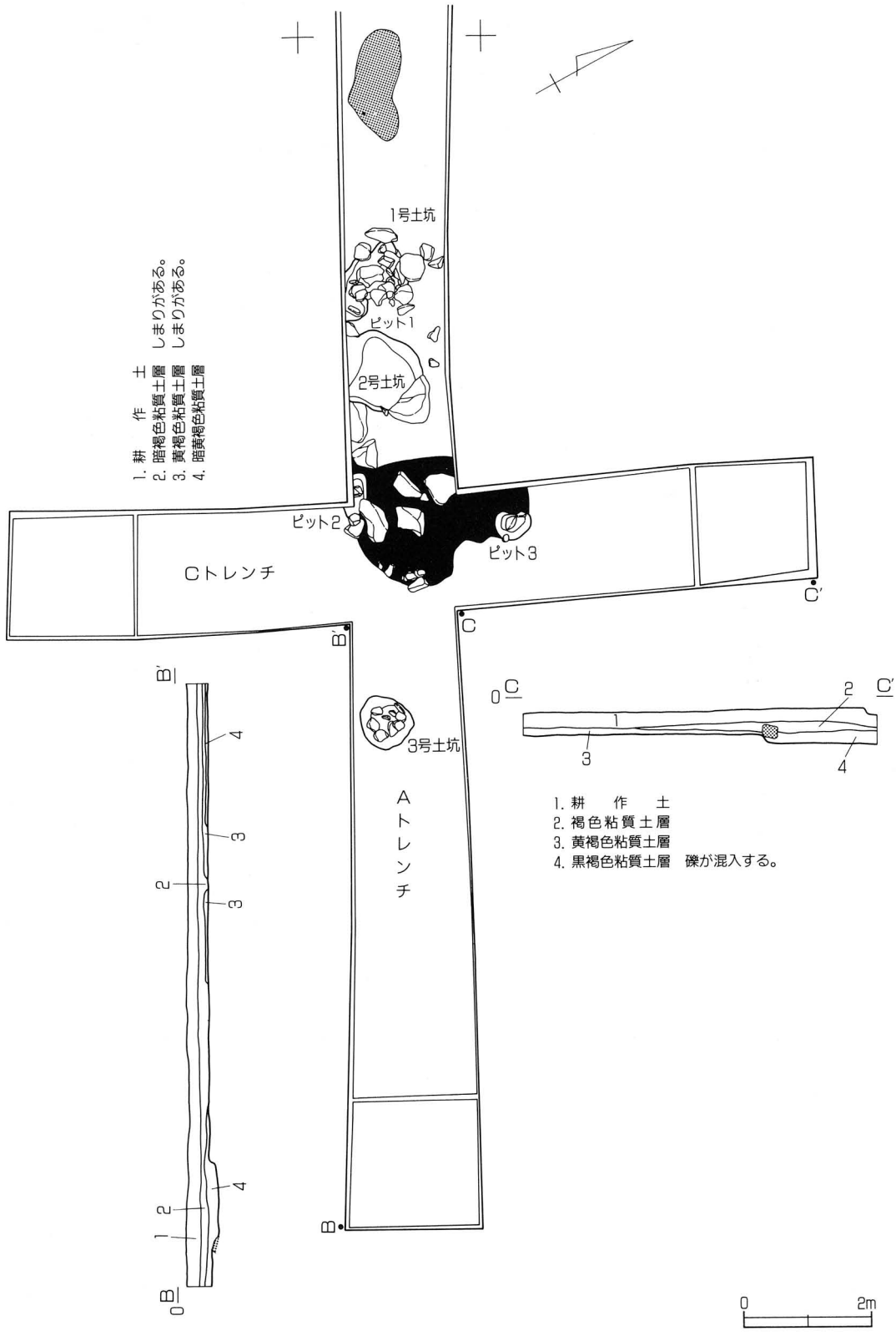


図2　第60次調査全体図・セクション（2）

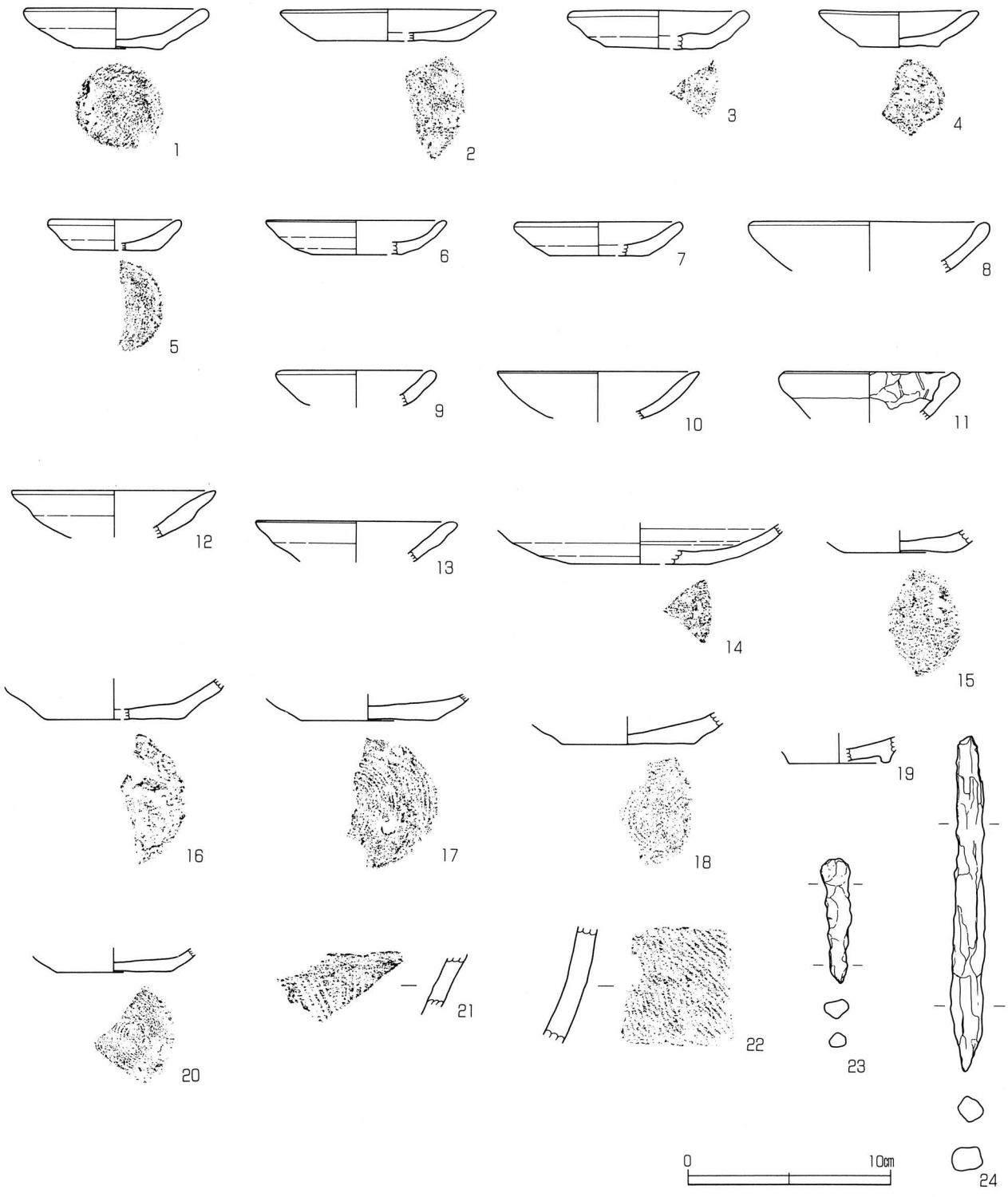


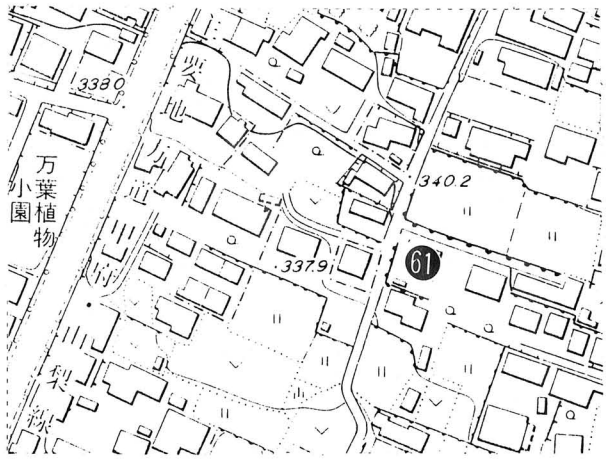
図３　第60次調査出土遺物

表1　第60次調査出土遺物観察表

（　）復元値、〈　〉残存値、単位(cm)

番号	出土地点	種別 産地	器種	法量 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	一括	土器	かわらけ	8.8 ・ 2.0 ・ 4.4	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
2	一括	土器	かわらけ	(10.4)・(1.55)・(7.0)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	底部摩耗
3	一括	土器	かわらけ	(8.5)・(1.9)・(5.2)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	内)橙 5YR 6/6 外)橙 7.5YR 6/6	
4	一括	土器	かわらけ	(7.6)・(1.75)・(4.0)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・金雲母	良	内)橙 5YR 6/6 外)明赤褐 5YR 5/6	
5	一括	土器	かわらけ	(6.3)・(1.5)・(4.2)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	にぶい黄褐 10YR 6/4 灰黄褐 10YR 5/2	底部摩耗
6	一括	土器	かわらけ	(8.7)・(1.7)・(4.4)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
7	一括	土器	かわらけ	(8.0)・(1.65)・(4.8)	口縁部～底部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
8	一括	土器	かわらけ	(11.4)・〈2.5〉・ －	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・金雲母・赤色粒子	良	浅黄橙 10YR 8/4	
9	1号土坑	土器	かわらけ	(7.4)・〈1.8〉・ －	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
10	一括	土器	かわらけ	(9.8)・〈2.3〉・ －	口縁部～体部	ロクロ成形	石英・金雲母	良	黒 10YR 2/1 にぶい黄褐 10YR 5/3	
11	一括	土器	かわらけ	(8.3)・〈2.4〉・ －	口縁部～体部	ロクロ成形	石英・雲母	良	にぶい橙 7.5YR 7/4 灰褐 7.5YR 5/2	
12	一括	土器	かわらけ	(10.0)・〈2.3〉・ －	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・石英・雲母	良	橙 7.5YR 7/6	
13	一括	土器	かわらけ	(9.5)・〈2.0〉・ －	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
14	2号土坑	土器	かわらけ	－ ・〈2.0〉・(7.0)	底部	ロクロ成形	密	良	浅黄橙 7.5YR 8/3	
15	一括	土器	かわらけ	－ ・〈1.1〉・(5.4)	底部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	内)橙 5YR 6/6・灰黄褐 10YR 5/2 外)黒褐 7.5YR 3/1	
16	一括	土器	かわらけ	－ ・〈2.0〉・(6.8)	底部	ロクロ成形	長石	良	にぶい橙 7.5YR 7/4	
17	一括	土器	かわらけ	－ ・〈1.3〉・(6.6)	底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・金雲母	良	内・外) 黒 10YR 2/1 断面) にぶい橙 7.5YR 6/4	
18	一括	土器	かわらけ	－ ・〈1.6〉・(6.6)	底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・金雲母	良	にぶい橙 7.5YR 6/4	
19	一括	陶器	不明	－ ・〈1.3〉・(5.0)	底部	－	緻密	良	－	
20	一括	土器	かわらけ	－ ・〈1.15〉・(5.6)	底部	ロクロ成形	長石・金雲母	良	黒 10YR 1.7/1	
21	一括	土器	擂鉢	－ ・ － ・ －	体部	ナデ成形	長石・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
22	一括	須恵器	不明	－ ・ － ・ －	体部	ロクロ成形	長石	良	灰白 N8/	
23	一括	鉄製品	釘？	長さ 6.09 ・最大限 1.46 ・厚さ 0.9	－					
24	一括	鉄製品	釘？	長さ 16.45 ・最大限 1.55 ・厚さ 1.25	－					

武田氏館跡第61次調査



所　在　地　大手三丁目3708－3
調査原因　数野信宅建築工事
調査面積　122㎡
調査期間　平成11年1月19日～2月5日
調査担当者　志村憲一

調査の概要

東側に藤川、西側に相川が流れる相川扇状地の扇央部に位置する緩傾斜地で、標高338m前後を測る。北東側に武田氏館跡が占地し、南北基幹街路である広小路・鍛冶小路に挟まれた場所にあたる。現在、周辺には住宅が密集しているが、古絵図等によると家臣屋敷の存在が推定され、これまでも数回に渡る調査が行われている地域である。

調査は建物敷地全面を対象とし、重機で表土を掘削した後、人力による精査を行った。

遺　　構

溝1条、土坑6基、ピット70基が検出された。

溝　調査区東隅に確認され、N－61°－Eに軸をもつ。最大幅43cm、深さ9cmを測る。溝内から、かわらけが出土した（図2－1・5・7）。

土　坑　1号土坑は直径約60cm、深さ47cmを測り、平面形態は円形を呈する。直径20～40cm程度の石を充塡する。内部から、かわらけの破片・壁土が出土した。2号土坑は直径約140cm、深さ28cmを測り、平面形態は円形を呈する。直径10～20cm程度の石がまばらに入り、ピット20と重複する。かわらけ・土器底部が出土した。3号土坑は確認できた部分で長径110cm、深さ18cmを測り、平面形態は円形を呈すると思われる。4号土坑は確認できた部分で長径88cm、深さ20cmを測り、平面形態は円形を呈すると思われる。3号土坑と並行する。5号土坑は長径74cm、深さ10cmを測り、平面形態は楕円形を呈する。直径10～20cm程度の石を充塡し、ピット38と重複する。内部から、かわらけ・土器底部が出土した（図2－4・21）。6号土坑は長径100cm、深さ56cmを測り、不正楕円形を呈する。内部から、かわらけの破片が出土した。

ピット　確認されたピットは直径20～70cm、深さ10～60cmを測る。調査区東側に集中するが、規則性をもつ列構成は見られない。内部から、かわらけの破片が出土したものもあるが小片のため図化には至らなかった。

遺　　物

かわらけ（1～18）を主体とし、土器（21）．陶器（19）・磁器（20・22・23）・石製品（24）・青銅製品（25）・銭貨（26・27）が出土した。

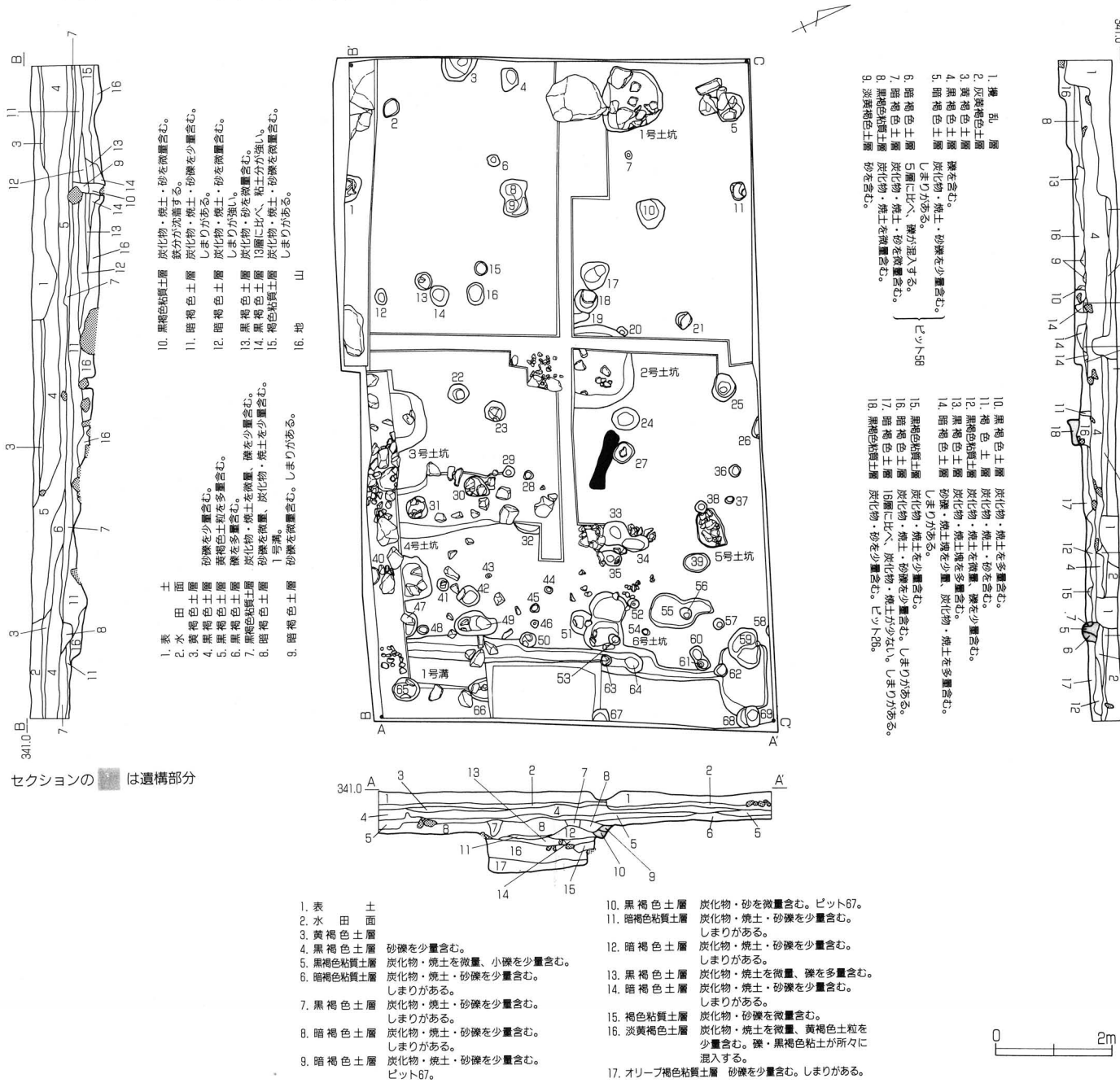
かわらけはロクロ成形で、底部に回転糸切り痕を残す。8のかわらけは手づくねと思われる。19は丸皿の底部と思われ、大窯2段階に比定される。20は白磁碗、22は青磁大皿、

23は青磁の破片で器種は不明である。24は石皿である。銭貨は26が洪武通宝、27は景徳元宝である。

ま と め

本地点は、古絵図によると武田氏の家臣屋敷跡が示唆される場所である。絵図によりその記載は少々異なるが、中沢泉氏所蔵「古府中村絵図」によれば真田弾正の屋敷跡と推定される。

調査の結果、確認された溝・土坑・ピットは出土遺物から16世紀代に位置づけられる。70基に及ぶピットには規則性が見られず、数回に渡る建物の建て替えが行われたと推定される。青磁・白磁片が出土しているが、隣接する第15次調査地点からも龍泉窯系青磁の盤が出土しており、武田氏家臣屋敷が存在した可能性が示唆される。



1. 表　　土
2. 水　田　面
3. 黄褐色土層
4. 黒褐色土層　砂礫を少量含む。
5. 黒褐色粘質土層　炭化物・焼土を微量、小礫を少量含む。
6. 暗褐色粘質土層　炭化物・焼土・砂礫を少量含む。しまりがある。
7. 黒褐色土層　炭化物・焼土・砂礫を少量含む。しまりがある。
8. 暗褐色土層　炭化物・焼土・砂礫を少量含む。しまりがある。
9. 暗褐色土層　炭化物・焼土・砂礫を少量含む。ピット67。
10. 黒褐色土層　炭化物・砂を微量含む。ピット67。
11. 暗褐色粘質土層　炭化物・焼土・砂礫を少量含む。しまりがある。
12. 暗褐色土層　炭化物・焼土・砂礫を少量含む。しまりがある。
13. 黒褐色土層　炭化物・焼土を微量、礫を多量含む。
14. 暗褐色土層　炭化物・焼土・砂礫を少量含む。しまりがある。
15. 褐色粘質土層　炭化物・砂礫を微量含む。
16. 淡黄褐色土層　炭化物・焼土を微量、黄褐色土粒を少量含む。礫・黒褐色粘土が所々に混入する。
17. オリーブ褐色粘質土層　砂礫を少量含む。しまりがある。

図１　第61次調査全体図・セクション

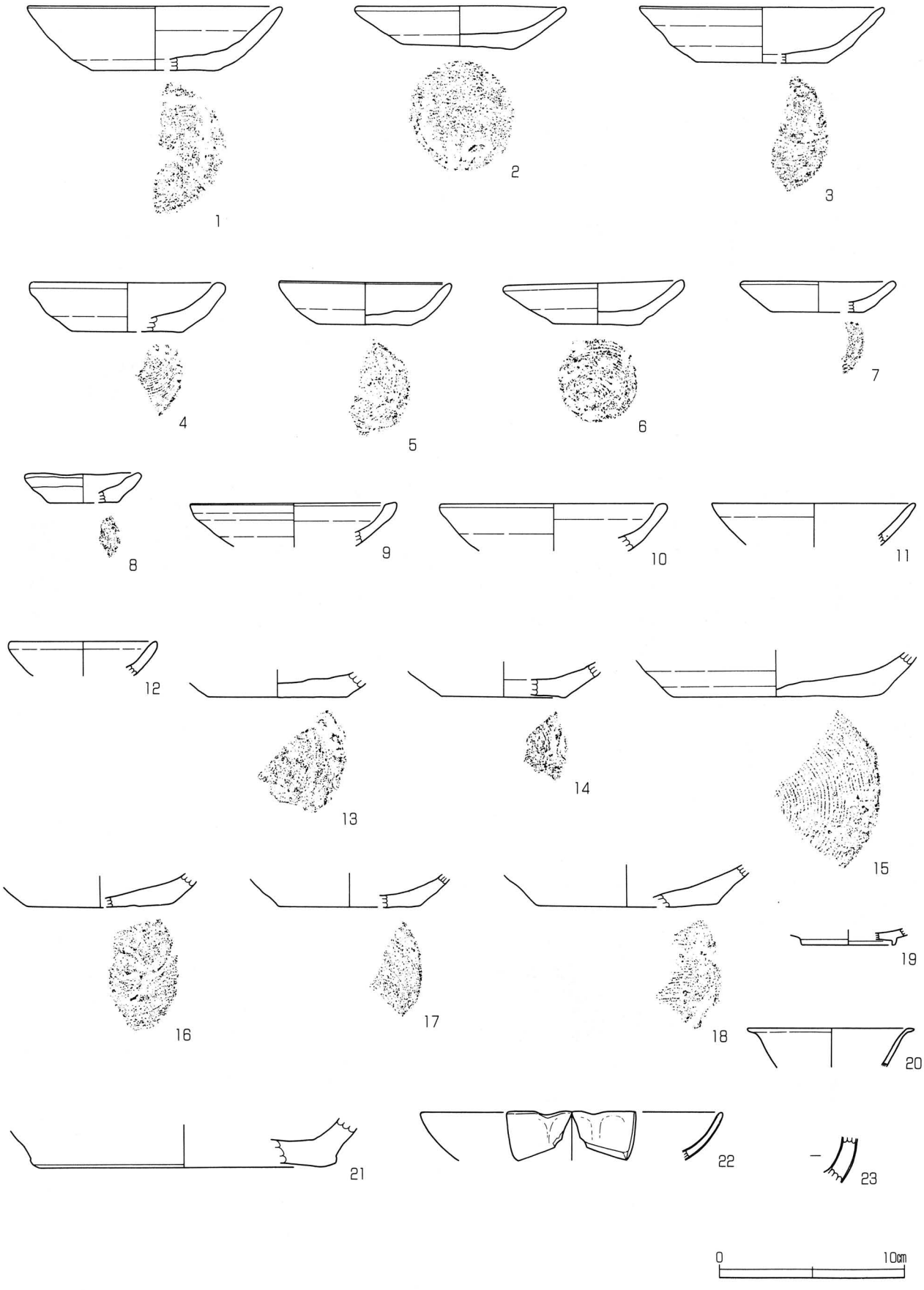


図２　第61次調査出土遺物（1）

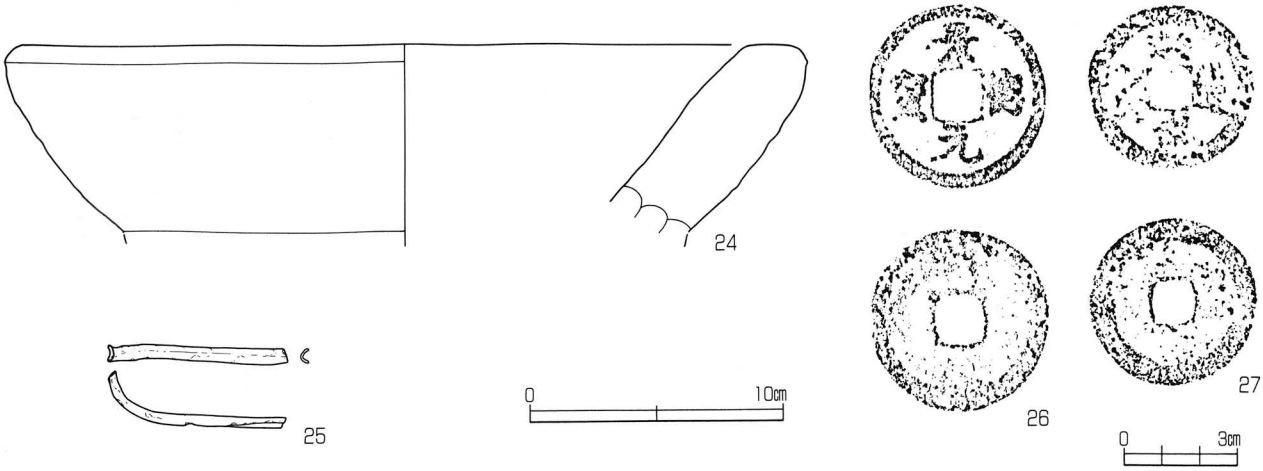


図３　第61次調査出土遺物（2）

写真１　調査区全景

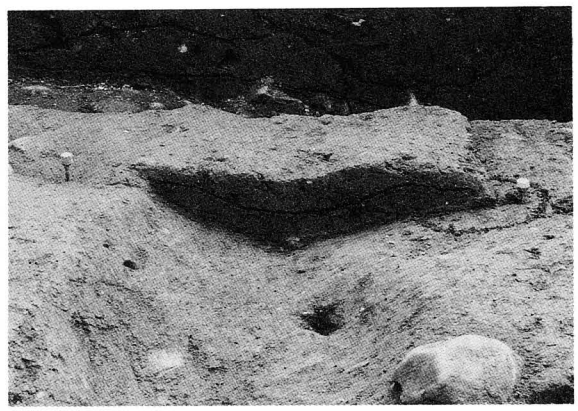


写真２　１号溝セクション

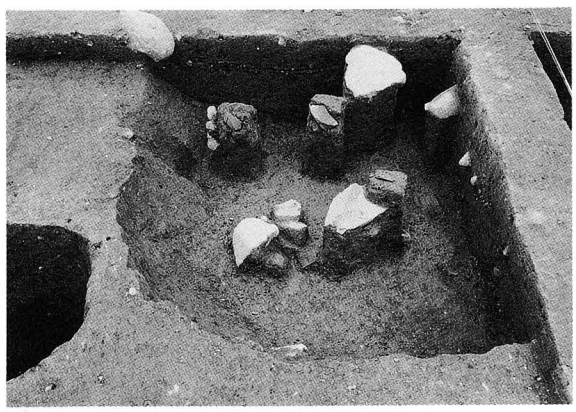


写真３　２号土坑遺物出土状況

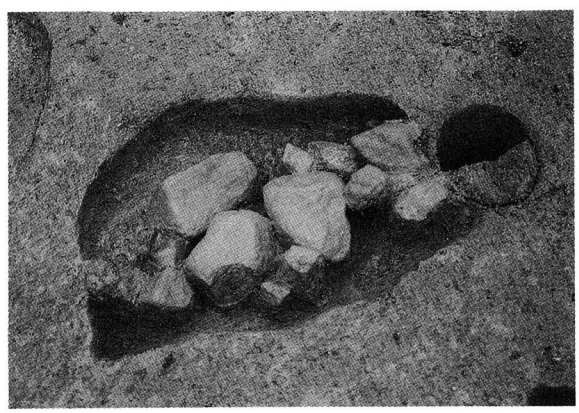


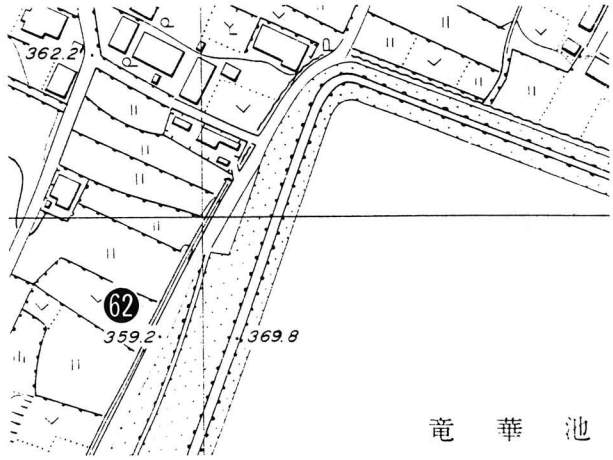
写真４　５号土坑検出状況

表１　第61次調査出土遺物観察表

（　）復元値、〈　〉残存値、単位(cm)

番号	出土地点	種別 産地	器種	法量 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	１号溝	土器	かわらけ	(13.5)・(3.45)・(6.8)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
2	一括	土器	かわらけ	11.2・2.2・6.0	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
3	一括	土器	かわらけ	(13.3)・(3.0)・(7.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英	良	にぶい橙 7.5YR 7/4	
4	５号土坑	土器	かわらけ	(10.1)・(2.6)・(6.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英	良	にぶい橙 7.5YR 6/4	
5	１号溝	土器	かわらけ	(9.2)・(2.3)・(5.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英	良	にぶい褐 7.5YR 5/3	
6	一括	土器	かわらけ	9.5・2.2・4.6	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
7	１号溝	土器	かわらけ	(8.1)・(1.45)・(5.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	明赤褐 5YR 5/6	
8	一括	土器	かわらけ	(6.0)・(1.6)・(3.8)	口縁部～底部	手づくね？	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
9	一括	土器	かわらけ	(11.0)・〈2.3〉・－	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
10	一括	土器	かわらけ	(12.0)・〈2.5〉・－	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	明赤褐 5YR 5/6	
11	一括	土器	かわらけ	(11.0)・〈2.2〉・－	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
12	一括	土器	かわらけ	(8.0)・〈1.8〉・－	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/6	
13	炭化物周辺	土器	かわらけ	－・〈1.4〉・(7.6)	底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
14	一括	土器	かわらけ	－・〈1.9〉・(6.8)	底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	にぶい橙 7.5YR 5/4	
15	一括	土器	かわらけ	－・〈2.3〉・(11.2)	底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	明赤褐 5YR 5/6	
16	一括	土器	かわらけ	－・〈1.7〉・(8.0)	底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 7.5YR 6/6	
17	一括	土器	かわらけ	－・〈1.8〉・(7.6)	底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
18	一括	土器	かわらけ	－・〈2.3〉・(9.8)	底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母	良	橙 5YR 6/6	
19	一括	陶器	丸皿？	－・〈0.9〉・(5.0)	底部		密／灰釉	良好	－	大窯２段階
20	一括	白磁	碗	(8.0)・〈2.4〉・－	口縁部～体部		緻密	良好	－	
21	５号土坑	土器	不明	－・〈2.6〉・(16.3)	底部		長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	橙 7.5YR 6/6	
22	ピット19	青磁	皿	(16.0)・〈2.6〉・－	口縁部～体部		緻密	良好	－	
23	一括	青磁	不明	－・〈2.5〉・－	体部		緻密	良好	－	
24	一括	石製品	石皿	(40.0)・〈8.0〉・－	口縁部～体部					
25	一括	青銅製品	不明	長さ 7.1・幅 0.6・厚さ 0.1						
26	一括	銭貨	景徳元宝	直径 2.45・穿径 0.62・重量 2.8ｇ						
27	一括	銭貨	洪武通宝	直径 2.28・穿径 0.55・重量 2.5ｇ						

武田氏館跡第62次調査



所　在　地　古府中町3575－1
調査原因　川脇和人宅新築工事
調査面積　22㎡
調査期間　平成11年５月31日～６月３日
調査担当者　佐々木　満

調査の概要

武田氏館跡隠居曲輪から北東部に位置し、標高359ｍを測る。城下へ南下する鍛冶小路が東接し、高塀の字名を残している。字名は「古府中村絵図」（中沢泉氏所蔵）にも記載が見られ、塀や牢獄の存在が示唆される地域である。北西40ｍに位置する第44次調査地点では、中世の溝とピットが確認されている。

調査は２×２ｍのグリッドを３か所設定し、人力による掘り下げを行った。

遺　　構

第１・２トレンチは掘削して15cm程度で地山面となった。第３トレンチでピットが２基確認された。ピット１は直径42cm、ピット２は直径16cmを測る。出土遺物がなく、時期は不明である。

遺　　物

表面採集で土器片が２点出土したが、小片のため図化しなかった。

ま　と　め

周辺の調査では中世の遺構・遺物が確認されているが、本地点ではピットが２基確認されたのみであった。出土遺物がないため、時期も確定するには至らなかった。

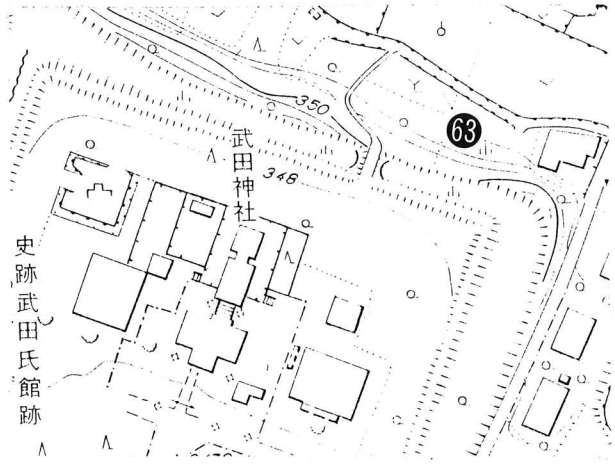
図1　第62次調査トレンチ位置図

写真１　第１トレンチ

写真２　第２トレンチ

写真３　第3トレンチ ピット検出状況

武田氏館跡第63次調査



所　在　地　古府中町2777-2、2779-1、2780
調査原因　スポット公園整備
調査面積　350㎡
調査期間　平成12年２月23日～29日
調査担当者　平塚洋一

調査の概要

武田氏館跡を構成する御隠居曲輪の南側に位置し、標高350ｍを測る。御隠居曲輪は武田信虎正室大井夫人（信玄生母）が隠居生活をした場所と伝承されている。東側には武田氏時代から残る街路が南走する。古絵図によると、本地点北西側に信玄実弟逍遙軒信綱の屋敷跡の存在が示され、現在「逍軒屋敷」の字名が残っている。

公園整備予定地内に３か所のトレンチを設定して、人力による遺構の確認を行った。

遺　　構

長径20～100㎝を測る礫が確認されたが、遺構の検出はなかった。

遺　　物

多くは破片資料で図化できたものは少ないが、かわらけ（１・２）、須恵器（３）、土製品（４）、鉢（５）が出土した。かわらけはロクロ成形である。土製品は円盤状を呈し、周縁が研磨されている。

ま　と　め

本地点北側80ｍに位置する第18次調査地点では、石列・溝跡や礫が敷き詰められている状況が確認されており、本調査の礫もこれと関係すると思われる。しかし、限られた調査範囲のため詳細を明らかにするには至らなかった。

写真１　トレンチ３　礫検出状況

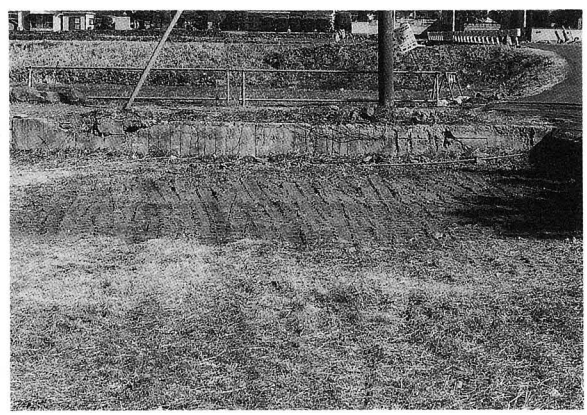
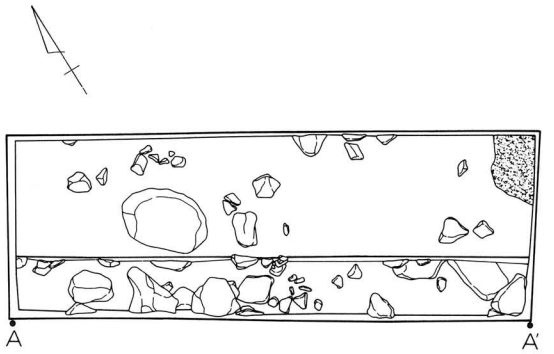
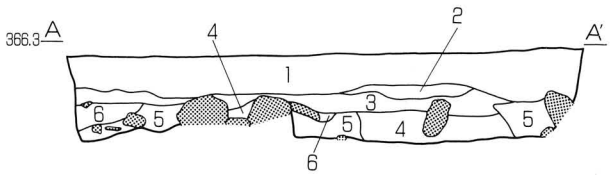


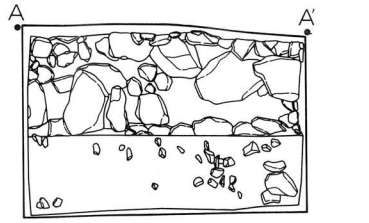
写真２　調査終了後風景

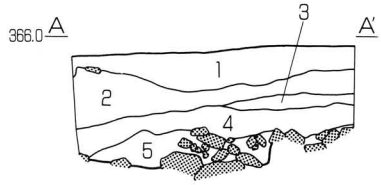




1. 表　　土　コンクリート片が混入する。
2. 暗灰色粘土層
3. 暗褐色粘土層　小礫を含む。
4. 暗褐色粘土層　大・小の礫を多量含む。
5. 暗褐色粘土層　大・小の礫を多量含む。4層に比べしまりがある。
6. 暗褐色粘土層　炭化物・土器片が混入する。

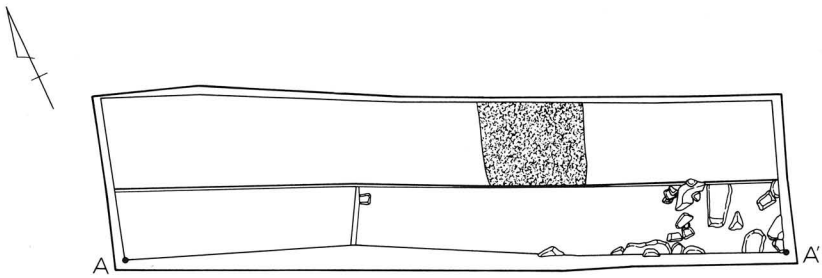
トレンチ1

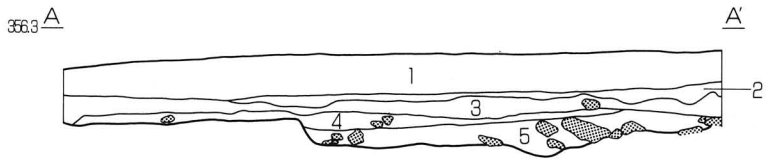




1. 表　　土　コンクリート片が混入する。
2. 礫 混 砂 層
3. 暗灰色粘土層
4. 暗褐色粘土層　炭化物・土器片が混入する。
5. 暗褐色粘土層　礫を含む。

トレンチ3





1. 表　　土　コンクリート片が混入する。
2. 暗灰色粘土層
3. 暗褐色粘土層　小礫を含む。
4. 黒 褐 色 土 層　しまりがある。
5. 暗 褐 色 土 層　大・小の礫を多量含む。

トレンチ2

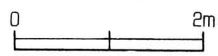


図１　第63次調査トレンチ平面図・セクション

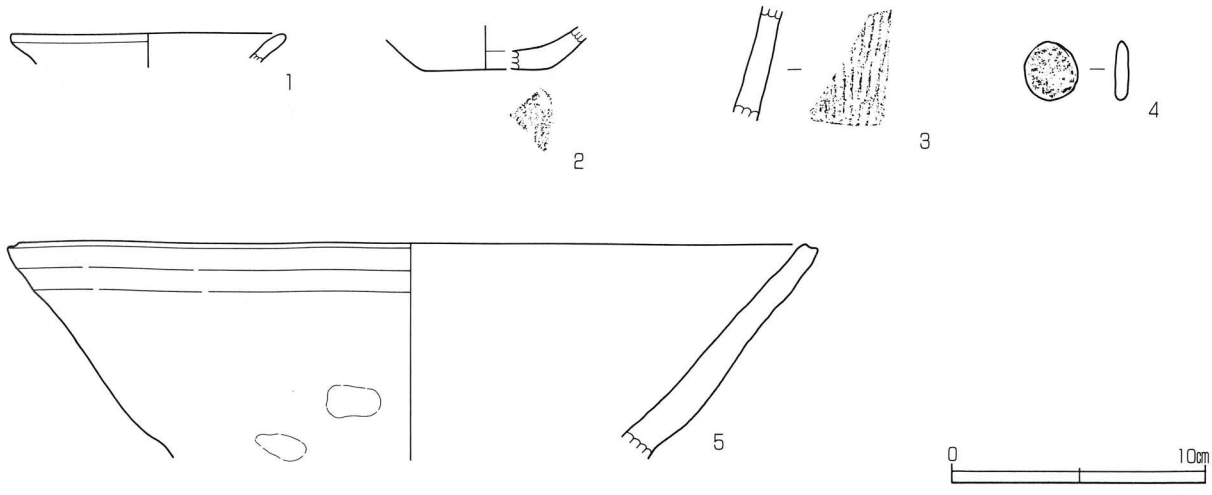


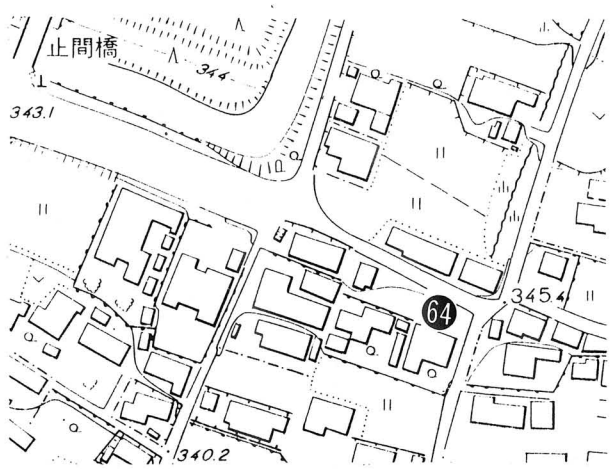
図２　第63次調査出土遺物

表１　第63次調査出土遺物観察表

（　）復元値、〈　〉残存値、単位(cm)

番号	出土地点	種別 産地	器種	法量 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	トレンチ１	土器	かわらけ	(11.0)・〈1.2〉・－	口縁部	ロクロ成形	長石・石英・雲母・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
2	トレンチ３	土器	かわらけ	－・〈1.8〉・(5.0)	底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良	にぶい橙 7.5YR 7/4	
3	トレンチ３	須恵器	不明	－・〈4.4〉・－	体部		密	良	灰 N6/	
4	トレンチ１	土器	土製品	直径 厚さ 重量 2.03・0.52・2.5ｇ	完形		密	良	橙 5YR 7/6	
5	トレンチ２	土器	鉢	(31.0)・〈9.5〉・－	口縁部 ～体部	ナデ成形	長石・石英・金雲母	良	にぶい黄褐 10YR 6/4	

武田氏館跡第64次調査



所　在　地　大手三丁目3748-2、3748-7
調査原因　宅地分譲
調査面積　60㎡
調査期間　平成13年10月19日～11月２日
調査担当者　伊藤正彦

調査の概要

武田氏館跡の南西に位置し、標高345ｍを測る。大正15年発行の『西山梨郡志』所収「古府之図」によると、本地点周辺には穴山伊豆守・高坂弾正・馬場美濃守といった武田氏家臣の名前が記載されており、家臣屋敷の存在が示唆される地域である。

調査区内２か所にトレンチを設定し、重機及び人力による掘り下げを行った。

遺　　構

溝１条、ピット２基、井戸２基が検出された。

溝　　１号溝は最大幅115㎝、深さ20㎝を測り、Ｎ－153°－Ｗに軸をもつ。溝内からは、かわらけと鉄製品が出土した（図３－４・６）。

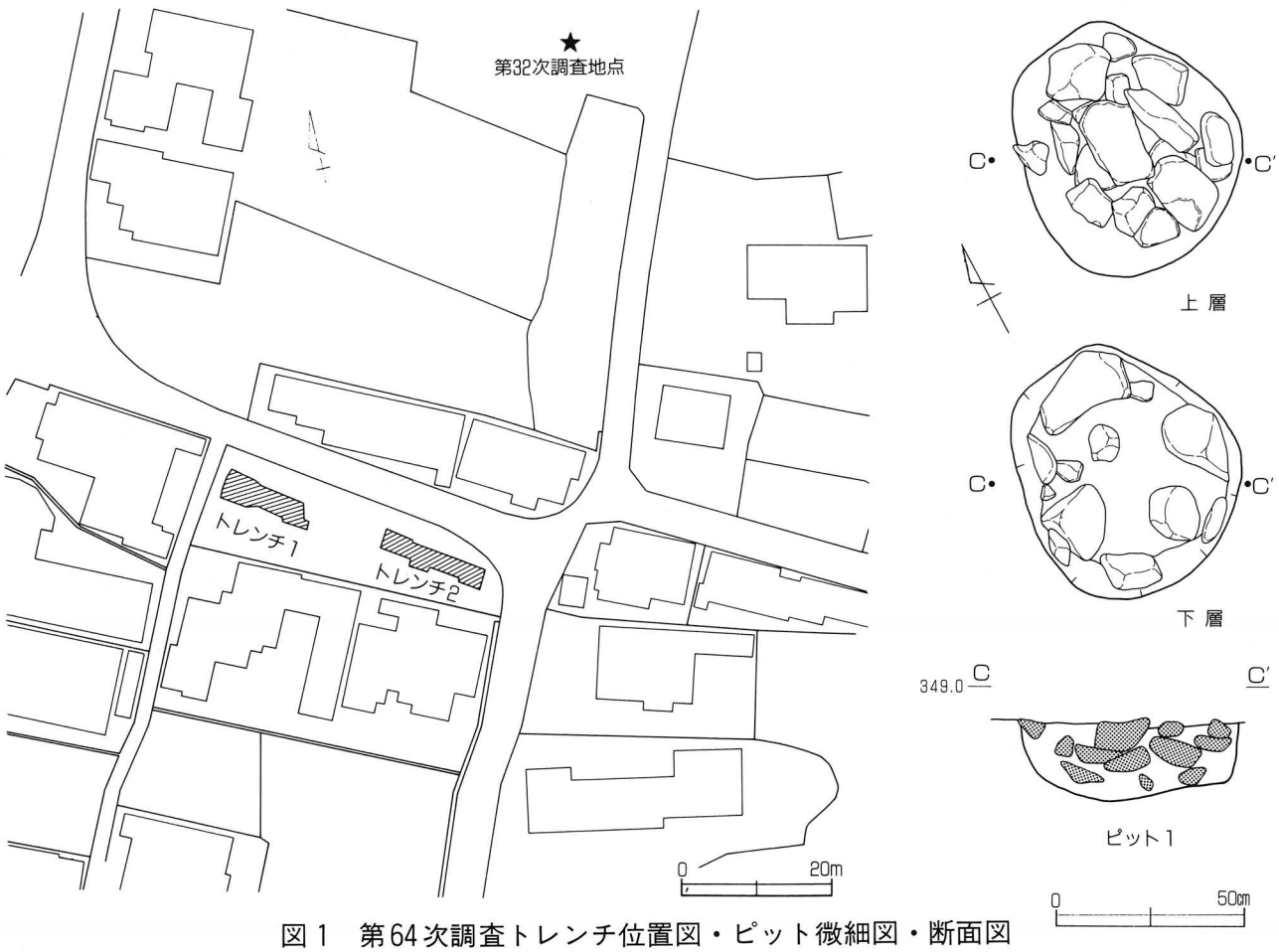


図１　第64次調査トレンチ位置図・ピット微細図・断面図

ピット　ピット１は直径60cm、深さ22cmを測る。内部には直径５～20cmの礫が充塡していた。ピット２は直径50cm、深さ18cmを測る。

井　戸　１号井戸は確認できた部分で直径230cm、深さ40cmを測る。１号溝と重複するが、壁面層の堆積状況から１号溝よりも古い時期と判断できる。内部からは二次焼成を受け、内面に溶融物が付着したかわらけが出土した（図３－１）。２号井戸は確認できた部分で直径240cm、深さ36cmを測る。内部からは、かわらけの破片が出土した。

遺　　物

出土した遺物の多くは破片資料で、図化できたものは少ない。１～５は、ロクロ成形のかわらけである。そのうち、１・５は見込みに溶融物が付着した二次焼成かわらけである。６の鉄製品には細い針金が巻かれていた。

ま　と　め

出土遺物から中世のものと思われる遺構が確認されたが、調査範囲に限りがあるため詳細を明らかにするには至らなかった。今後の周辺調査に期待したい。

写真１　トレンチ１　井戸検出状況

写真２　トレンチ２　ピット検出状況

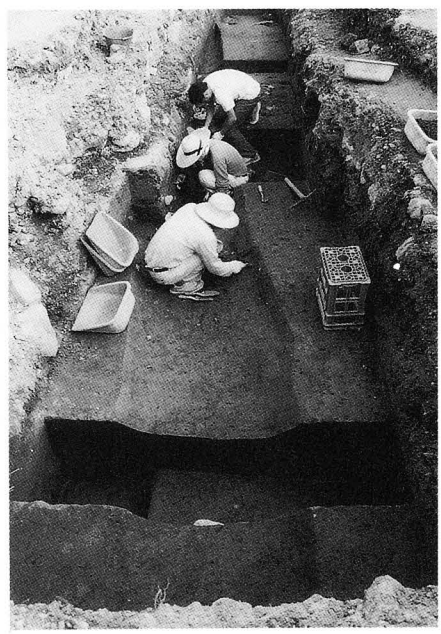


写真３　調査風景

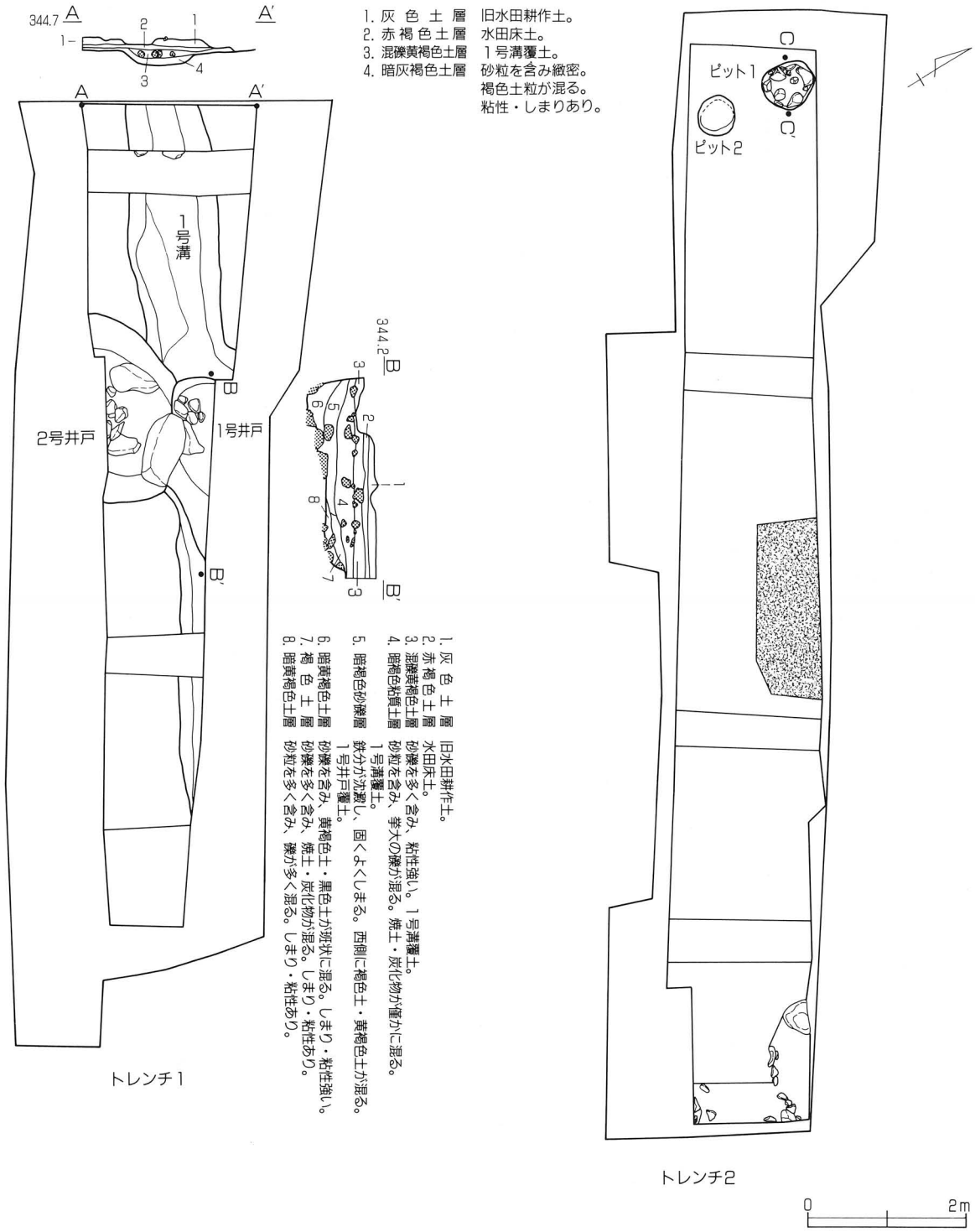


図2　第64次調査全体図・セクション

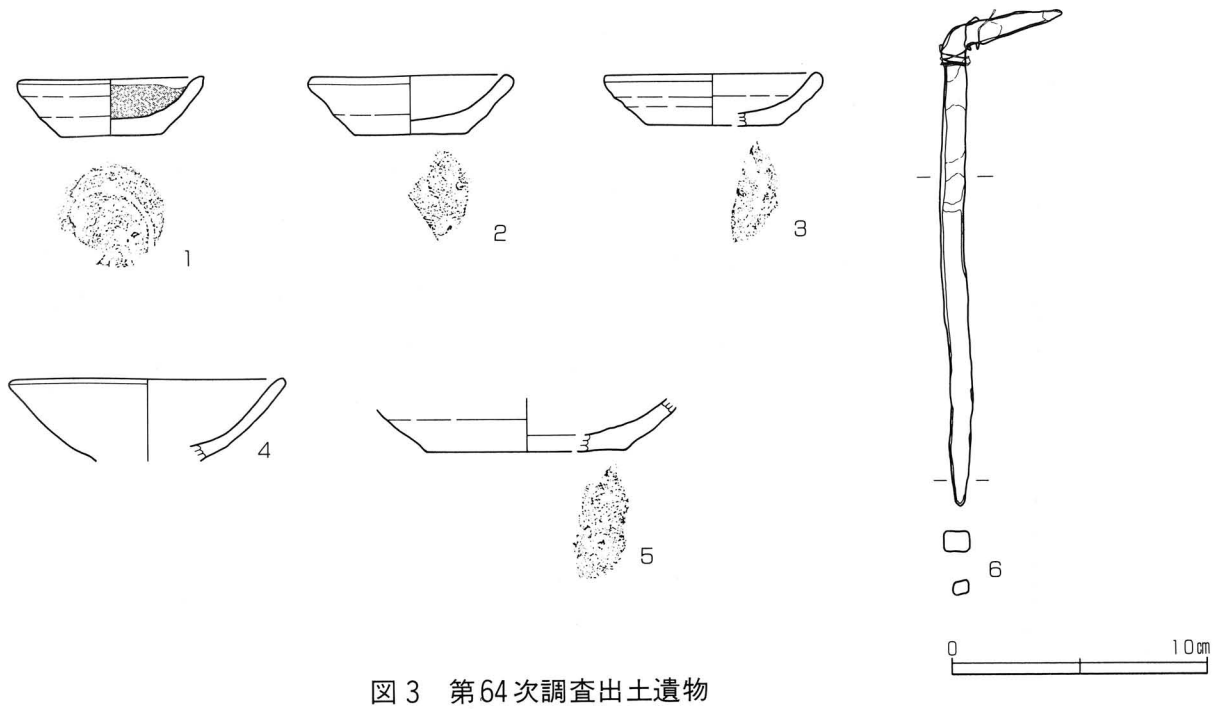


図３　第64次調査出土遺物

表１　第64次調査出土遺物観察表

（　）復元値、〈　〉残存値、単位(cm)

番号	出土地点	種別 産地	器種	法量 口径・器高・底径	部位	調整など	胎土	焼成	色調	備考
1	トレンチ２	土器	かわらけ	4.0 ・ 2.3 ・ 7.2	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英	良	褐灰 10YR 6/1	溶融物付着
2	トレンチ２	土器	かわらけ	(7.7) ・ (2.4) ・ (4.4)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母・赤色粒子	良	橙 5YR 6/6	
3	トレンチ１	土器	かわらけ	(8.4) ・ (2.1) ・ (5.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母・赤色粒子	良	にぶい橙 7.5YR 7/4	
4	１号溝	土器	かわらけ	(10.8) ・〈3.25〉・ －	口縁部～体部	ロクロ成形	長石・金雲母・赤色粒子	良	浅黄橙 7.5YR 8/4	
5	トレンチ２	土器	かわらけ	－ ・〈2.1〉・ (5.0)	口縁部～底部	ロクロ成形 回転糸切り	長石・石英・雲母・金雲母・赤色粒子	良	にぶい橙 7.5YR 7/4	見込みに溶融物付着
6	１号溝	鉄製品	不明	長さ・幅・厚さ 20.0 ・ 0.84 ・ 0.8	完形					針金が巻き付く

第2章　小　　括

1．武田氏館跡周辺調査の成果

第57次～64次調査では中世の溝・土坑・柱穴・井戸が確認され、かわらけ、大窯2・3段階に比定される瀬戸美濃皿、青磁・白磁の破片などが出土した。

中でも特筆すべきは、第57次調査で建物跡と屋敷を区画すると思われる溝がセットで確認されたことである。柱間は建物跡が約2ｍ80cm、調査区西側の柱穴列が1ｍ80cmである。建物跡と西側柱穴列の間に屈曲して走る2号溝は屋敷を区画するものと考えられるが、建物の配置から見て屋根からの雨水を受ける機能も同時にもち合わせていたと推測される。また、礫を伴う柱穴列は北壁セクションから窺えるように、近代に掘り込まれたものと考えられるが中世の建物跡とほぼ同じ軸をとる配置をしている。東西方向、南北方向ともに柱間は2ｍを測る。この他にも重複する柱穴が見られ、数回に渡る屋敷の建て替えが行われたと思われる。

第61次調査でも中世の溝と柱穴が確認されたが、規則性をもつ柱穴列は確認されず、数回に渡る屋敷の建て替えが行われていたものと推測される。

2．山梨県における15～16世紀代の掘立柱建物跡

山梨県では事例が少ないものの、城郭調査件数の増加による成果の蓄積や研究が進み、建物跡についても建築形式の分類や中世の掘立柱建物跡の変遷が検討されている（室伏2001）。

本章でも、まずは武田氏館跡に相当する時代の掘立柱建物跡が確認された遺跡を簡単にまとめておきたい。

川田館跡　武田氏が永正16年（1519）に躑躅ヶ崎館に移転するまでの約半世紀の間、居を構えたとされ、『甲斐国志』「巻之四十　古蹟部第三」には「信昌ニ至リ跡部ヲ退治シテ河田ノ館ヲ築キ遷之ニヤ」との記載が見られる。

掘立柱建物跡は川田館跡が存在したとされる地域で確認されており、館に関係する屋敷跡と推定される。確認された掘立柱建物跡の柱間は、東列で1ｍ80cm、1ｍ90cm、1ｍ20cm、西列で1ｍ75cm、1ｍ85cm、1ｍ20cm、南列で2ｍ30cm、2ｍ40cm、北列で2ｍ60cm、2ｍを測る（中山1990）。

勝沼氏館跡　『甲斐国志』によると武田信虎の弟である信友と、その子信元の二代の武田親族として活躍した勝沼氏の館跡とされる。

掘立柱建物跡は郭外の家臣屋敷に存在しており、内郭部は礎石建物であるのが特徴的である。時期は15～16世紀に位置づけられ、第1～3期の変遷が設定されている（室伏2001）。

3．武田氏館跡周辺における掘立柱建物跡

武田氏館跡味噌曲輪の西側に近接する土屋敷（第33次調査）では一定の規則性をもつ柱穴列が見られ、特にⅠ区では東西約5ｍ60cm、南北約2ｍ90cm間隔の掘立柱建物跡と屋敷を区画する堀跡が確認されている。A・H区では1ｍ80cm間隔の柱穴列が確認されており、これらの建物跡は出土遺物から16世紀代に位置づけられる。柱穴や溝が複雑に入り組んでいる様子は、数回に渡る建物の建て替えが行われた結果と考える。また、東側に掘を設けて屋敷境とし、西側は自然地形の傾斜が強まる所まで屋敷地としているなど、自然地形を利用した屋敷造営が特徴的である（鈴木2002）。

第57次調査では中世の掘立柱建物跡の軸を生かして礫を伴う柱穴列が存在し、土屋敷の

柱穴列とほぼ同一間隔を測る。これらの例と川田館跡の柱間に大きな差はないが、土屋敷Ⅰ区の掘立柱建物跡は東西側の柱間に５ｍ60cmとっている。これは、勝沼氏館跡の掘立柱建物跡にも見られない規模である。

４．まとめ

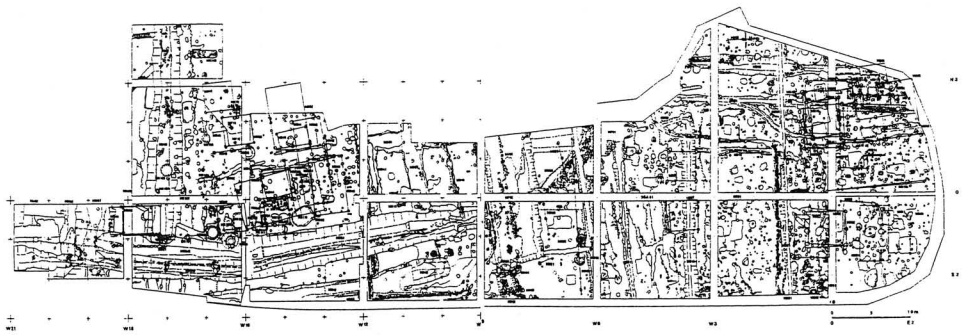
これまでの武田氏館跡周辺調査において確認された掘立柱建物跡は、第33次調査と第57次調査のみであるが、今後の調査で事例が増加する可能性が期待される。したがって、中世の掘立柱建物跡の研究が進みつつある今、現段階における15～16世紀の掘立柱建物跡の事例をまとめておくことも必要であろう。

引用文献

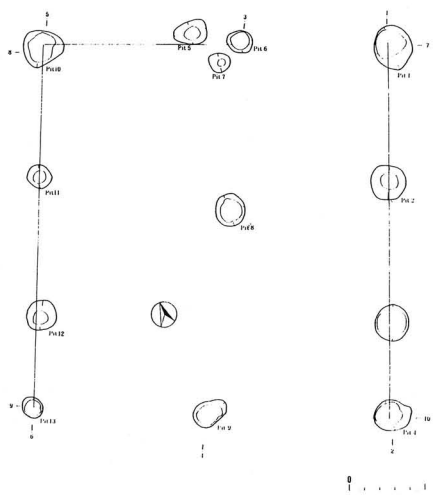
鈴木由香　2002　「第２章　小括」『史跡武田氏館跡Ⅷ』甲府市教育委員会　Ｐ68-69

室伏　徹　2001　「勝沼氏館跡」『武田系城郭研究の最前線』山梨県考古学協会　Ｐ24-31

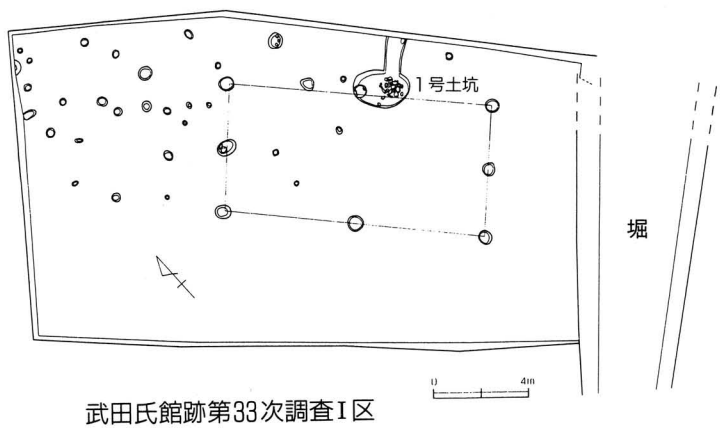
中山誠二　1990　『桜井畑遺跡Ａ・Ｃ地区』山梨県埋蔵文化財センター



勝沼氏館跡外郭域Ｇ地区



川田館跡２号掘立柱建物址



武田氏館跡第33次調査Ⅰ区

図１　山梨県における15～16世紀の掘立柱建物跡

報告書抄録

ふりがな	しせきたけだしやかたあと
書名	史跡武田氏館跡
副書名	第57次～第64次調査報告書
巻次	XI
シリーズ名	甲府市文化財調査報告
シリーズ番号	23
編集機関	甲府市教育委員会
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内1丁目18番1号　電話 055(223)7324
発行年月日	平成15年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	調査年度 調査面積	調査原因
たけだしやかたあと 武田氏館跡	やまなしけんこうふし 山梨県甲府市 こふちゅうまち・やかた 古府中町・屋形三丁目・ おおて 大手三丁目	19201	1110	平成10年度 ～ 平成13年度 767.0㎡	現状変更に伴う発掘調査

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
城館跡	中世	掘立柱建物跡・石列・溝・土坑・ピット・井戸	かわらけ・瀬戸美濃系陶器・染付・青磁・白磁・擂鉢・香炉・石臼・フイゴ羽口・銭貨	第59次調査は『武田氏館跡VI』で報告済み

甲府市文化財調査報告23

史跡 武田氏館跡 XI

— 第57次～第64次調査報告書 —

平成15年3月30日

発行　甲府市教育委員会
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内1丁目18番1号
TEL 055（223）7324
FAX 055（226）4889

印刷　㈱内田印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18